

小橋工業(株)のホームページ(以下、弊社サイト)においては、カタログ・取扱説明書・パーツリスト等の電子データの閲覧、ダウンロードのサービス(以下、本サービス)をご提供しております。

本サービスをご利用の際には、以下の注意事項をご確認ください。

## 電子データの取扱いについて

### 電子データの内容について

- 本サービスにおいては、弊社製品のカタログ、取扱説明書、パーツリスト等、製品に関する全ての印刷物を網羅するものではありません。
- カタログ、取扱説明書、パーツリストの内容は、製品の仕様変更などにより、予告なく変更される場合があります。その為、弊社サイト内に掲載される電子データの内容は、販売店等で配布、掲示されるカタログ、製品購入時に同梱する取扱説明書、印刷物として存在しているパーツリストの内容とは異なる場合がございます。

表記内容は、発行当時の情報であり、弊社純正部品の名称、小売単価、各営業所の名称、所在地などの情報が現在と異なる場合があります。

また、製品安全上の取り扱い、環境対応につきましては、製品販売時の法令、規制に適合するものであり、製品販売後の法令、規制の変更内容を反映していない場合があります。予めご了承ください。

### 著作権について

本サービス内の電子データにつきましては、弊社(小橋工業株式会社)が著作権その他知的財産権を保有します。無断で他のウェブサイトや印刷媒体に転載することや複製、翻訳等はできません。但し、お手持ちの製品ご使用の為、1部に限り印刷することができます。

### 保証について

弊社の製品保証、安全性の保証は製品付属の書面に基づく保証に限られており、弊社サイト内の電子データに基づく保証は提供いたしません。

### お問合せについて

ご使用の製品の取り扱い及び、使用上の安全等に関するお問合せは、ご購入店にご相談頂きますよう、お願いいたします。

### 免責事項

弊社サイトのご利用に起因するソフトウェア、ハードウェア上の事故その他の損害等につきましても、一切の責任を負いません。

弊社サイトのご利用に際して生じたお客さまと第三者との間のトラブルにつきましては、一切責任を負いません。弊社サイトのサービスは予告なく中止、または内容や条件を変更する場合がございます。

以上

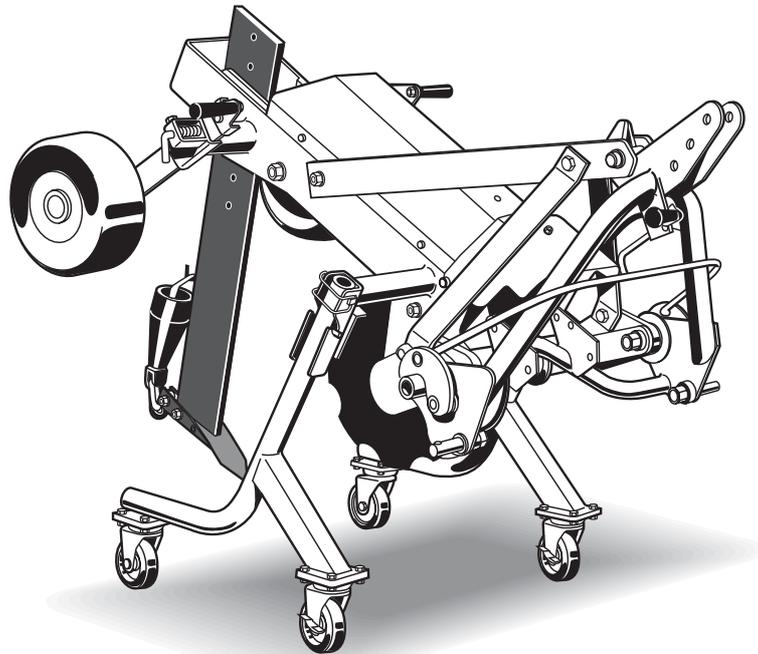
小橋工業株式会社

# コバシ シェークドレーナ

安全頁必読

## 取扱説明書

### DP501



当製品を安全に、また正しくお使いいただくために必ず本  
取扱説明書をお読みください。誤った使いかたをすると、  
事故を引き起こす恐れがあります。  
お読みになった後も必ず製品に近接して保存してください。

**KOBASHI**

## はじめに

このたびはコバシシェークドレーナをお買い上げいただきましてありがとうございました。

この取扱説明書は、シェークドレーナの性能を十分に発揮させ、より安全で快適な農作業をしていただくためにも、ご使用前によくお読みいただき、正しい取扱いをしてくださるようお願いいたします。

又、シェークドレーナを他の人に貸出しされる場合には、この取扱説明書も併せて貸出していただき、正しい取扱いをしていただくようにご指導をお願いいたします。

なお、本製品については、不断の研究成果を新しい技術としてただちに製品に取り入れておりますので、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますが、あらかじめご了承ください。

### ▲ 安全作業のポイント

◎安全な作業をしていただくためには、まず機械の使い方を十分理解し、正しい取扱いをすることが基本となります。

◎この取扱説明書では、特に、重要と考えられる取扱上の注意事項について、次のように表示しています。

必ずお読みいただいて事故のない安全な作業をしてください。

▲ **危険**…その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

▲ **警告**…その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

▲ **注意**…その警告文に従わなかった場合、ケガを負う恐れがあるものを示します。

**取扱上の注意**…その警告文に従わなかった場合、機械の損傷を起こす恐れのある操作を示します。

## シェークドレーナの使用目的・使用範囲

このシェークドレーナは心土破碎、弾丸暗渠による通水・排水・土層改良機械です。

使用目的以外の作業や改造などは、決してしないでください。

# 目次

<b>▲ 安全に作業するために</b> . . . . . 1	トラクタへの装着 (DP501-1S) . . . . . 19
1 はじめに . . . . . 1	1 装着前の準備 . . . . . 19
2 作業の前に . . . . . 1	2 トラクタへの装着 . . . . . 19
3 トラクタへの着脱 . . . . . 1	3 装着後のトラクタとの調整 . . . . . 21
4 防護カバー類の取付け . . . . . 2	4 トラクタからの取外し . . . . . 21
5 装着時の前後バランスの確認 . . . . . 2	作業前の点検 . . . . . 23
6 トラックへの積み・降ろし . . . . . 2	1 各部のボルト・ナットのゆるみ . . . . . 23
7 一般走行 . . . . . 3	2 ジョイントへのグリスアップ . . . . . 23
8 圃場への出入り . . . . . 3	3 グリス給油箇所 . . . . . 24
9 作業をしているとき . . . . . 3	4 ジョイントのノックピン . . . . . 24
10 作業中の点検 . . . . . 4	5 空転、暖機運転 . . . . . 24
11 トラクタを止めるとき . . . . . 4	移動、圃場への出入り . . . . . 25
12 その他 . . . . . 4	上手な作業の仕方 . . . . . 26
<b>▲ 安全ラベルの取扱い</b> . . . . . 5	1 適正な作業速度とPTO軸回転数 . . . . . 26
サービスと保証について . . . . . 7	2 作業深さの調整 . . . . . 26
各部の名称 . . . . . 8	3 作業姿勢の調整 . . . . . 26
シェークドレーナの組立 . . . . . 9	4 ハナガタコールタの調整 . . . . . 27
ジョイントの取付準備 . . . . . 10	5 作業上の注意 . . . . . 27
(DP501Tの場合) . . . . . 10	6 シャーボルトの組付け . . . . . 27
1 切断方法 . . . . . 10	保守点検 . . . . . 28
2 取付方法 . . . . . 11	保管・格納 . . . . . 30
3 長さの確認 . . . . . 11	主要諸元 . . . . . 31
(DP501-1Sの場合) . . . . . 12	消耗部品 . . . . . 32
トラクタへの装着 (DP501T) . . . . . 12	トラクタ別装着表 . . . . . 33
1 装着前の準備 . . . . . 12	点検整備一覧表 . . . . . 47
2 トラクタへの装着 . . . . . 14	異常診断一覧表 . . . . . 48
3 装着後のトラクタとの調整 . . . . . 17	用語解説 . . . . . 49
4 トラクタからの取外し . . . . . 17	

## ▲安全に作業するために

安全に作業していただくために次のことを守ってください。  
もし怠ると…傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります。

### 1 はじめに

1-1 取扱説明書をよく読み、機械の使い方をよく覚えてからご使用ください。  
トラクタの取扱説明書もあわせてよくお読みください。

機械の操作を知らずに使用するとたいへん危険です。

1-2 取扱説明書は、いつでも読めるように、機械と一緒に大切に保管してください。

1-3 機械を他人に貸出しされる場合は、取扱説明書も併せて貸出いただき、正しい取扱いをしていただくように、指導してください。



1-4 適応トラクタ以外への装着の禁止

主要諸元表に適応トラクタ馬力を表示していますので熟読の上、適応馬力内のトラクタに装着してください。特にトラクタ馬力が小さい場合はトラクタとの重量バランスが悪くなり事故の原因となります。



1-5 服装には注意を払いましょう

作業中の服装は、ヘルメット、丈夫な手袋、すべらない靴、キチンとした作業服を着用してください。だぶついたズボンや上着など、回転部分に巻き込まれやすい服装は、たいへん危険です。ボタンもキチンととめましょう。



1-6 次のような状態では、運転しないでください。

- ① 飲酒運転
- ② いねむり運転
- ③ 病気や薬物の作用で正常な運転ができないとき
- ④ 若年者
- ⑤ 妊娠中の方

機械の操作に十分熟練し、必要な運転免許証を携帯し、心身ともに健康な状態で運転してください。



1-7 共同作業がある場合は、動作ごとに合図を徹底しましょう。

1-8 使用目的以外の作業や、機械の改造は事故の発生、又は、機械の故障の原因となりますので、決してしないでください。

### 2 作業の前に

2-1 機械の点検を

各部のボルト、ナットなどのゆるみや、ピンの脱落がないか確認してください。作業中にボルト、ナット、ピンなどが外れますと、作業機やトラクタの破損の原因及び事故の原因となります。



### 3 トラクタへの着脱

3-1 作業機の着脱及び調整は、平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行いましょう。特に夜間の作業機の着脱は、安全で適切な照明を用いる等、安全に留意して行ってください。

▲安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります

- 3-2 トラクタを移動して作業機を装着する場合には、トラクタと作業機の間に入らないように注意してください。



- 3-3 トラクタと作業機の着脱に際しては、いつでも逃げられる安全な態勢で操作し、このときトラクタは必ずブレーキで止めておいてください。
- 3-4 二人以上で着脱を行う場合は、互いに合図しあいましょう。
- 3-5 ジョイントのノックピンが、確実にPTO軸溝に、又作業機入力軸溝にはまったか確認してください。



- 3-6 取付各部のトメピンが全て確実に装着されているか確認してください。



4 防護カバー類の取付け

- 4-1 ジョイントをはじめ、作業機のセフティカバー防護カバー類は必ず取付けてください。

5 装着時の前後バランスの確認

- 5-1 作業機とトラクタとのバランスの確認  
作業機を装着すると機体の長さや幅が大きくなり、重量バランスが変わります。確認の上トラクタの前輪に20%以上のウエイトがかかるように、フロントウエイトを取付けてください。なお、作業機に泥が付着して、重たく

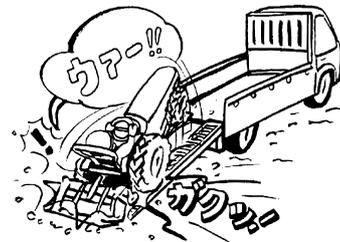
なる場合もありますので注意してください。又、アタッチメント等を取付けて使用される場合もバランスの確認を行い、フロントウエイトを取付けてください。



- 5-2 作業機に他のアタッチメントを取付ける場合は、事前に必ずアタッチメントの取扱説明書を良く読んでください。

6 トラックへの積み・降ろし

- 6-1 積み・降ろしの場所は平坦で安全なところを選びましょう。
- 6-2 すべり止めをした丈夫なアユミ板を確実に固定してください。傾斜角度、平行度を確認してください。
- 6-3 トラックは移動しないようにしっかりと車のサイドブレーキをかけてください。
- 6-4 トラクタの左右のブレーキペダルを連結し、脱輪しないように注意してください。又途中でクラッチを切ったり、変速を中立にしないでください。低速で積み・降ろしをしてください。
- 6-5 作業機を装着しての積み・降ろしはトラクタの重量バランスが変わります。泥の付着等もあり、十分注意して行ってください。



- 6-6 折りたためる作業機は折りたたみ、エクステンションエプロンもたたみ、トラックの荷台よりはみ出さないように注意し、強度が十分あるロープで確実に固定してください。

## ▲ 安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります

### 7 一般走行

7-1 トラクタは作業機を装着して公道を走行できません。

(道路運送車両の保安基準)

作業機を装着して走行すると、他の車や電柱等に引っかけて事故の原因になります。



7-2 トラクタ・作業機には運転者以外の人を乗せないでください。



7-3 左右のブレーキペダルを連結して走行してください。

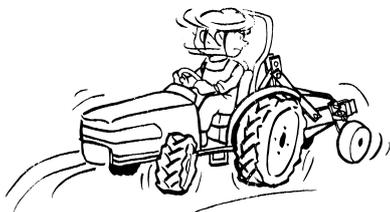


7-4 作業機の回転を止めて走行してください。

7-5 作業機の落下防止装置を必ず使用して走行してください。

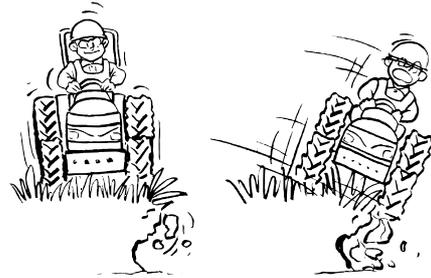
7-6 必要以上の高速運転、急発進、急ブレーキ、急旋回をしないでください。

7-7 旋回するときは、作業機に人や物が接触しないように注意してください。



7-8 作業機は左右がトラクタの機体幅より広い場合、走行時は十分注意してください。移動時は作業機の折りたたむ箇所は折りたたみ走行してください。又スタンドがついている場合も必ず外してください。

7-9 路肩に草が茂っている所を走行するときは特に路肩の強度に気を付けてください。



7-10 坂道では、クラッチを切ったり、変速を中立にしないでください。

7-11 坂道では、スピードを落とし、低速で走行してください。

7-12 坂道では、エンジンブレーキを使用し、急ブレーキをかけないでください。

### 8 圃場への出入り

8-1 圃場に入るときは、必ず前進で速度を下げ、うねや段差に対して直角に進んでください。

8-2 圃場から出るときは、傾斜しているうねはバックで上るか、又は丈夫なアユミ板を使用してください。



8-3 うねや段差に対して斜め方向に進むと、横滑りや転倒する危険があります。作業機を低くして重心を下げ、直角に進めてください。

### 9 作業をしているとき

9-1 いねむり運転、わき見運転をしないようあらかじめ体調を整えてください。

## ▲ 安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります

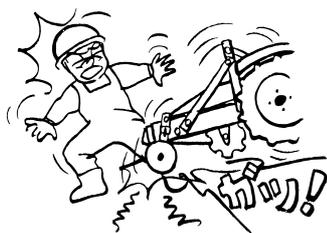
- 9-2 回転部分等、動く所には触れないでください。  
 9-3 作業中は、まわりに人を近寄せないでください。特に子供には十分注意してください。補助作業員がある場合は、動作ごとに合図をかわしてください。



- 9-4 運転者が運転位置をはなれて作業機を調整する場合、又、爪軸等への草やワラのからみ付きを取りのぞく場合等は、必ずトラクタの駐車ブレーキをかけ、又、エンジンを停止し、かつ、PTO軸への動力の伝導が絶たれていることを確認した上で行ってください。



- 9-5 作業機の下にもぐったり、足をふみこんだりしないでください。



- 9-6 ぬかるみにはまっても作業機は絶対に外さないで、他の車に引き上げてもらってください。牽引点は低くしてください。

## 10 作業中の点検

- 10-1 作業機の点検を行うときは、トラクタの駐車ブレーキをかけ、又、エンジンを停止し、かつ、PTO軸への動力の伝導が絶たれているこ

とを確認した上で行ってください。又、油圧ロックも必ず行ってください。



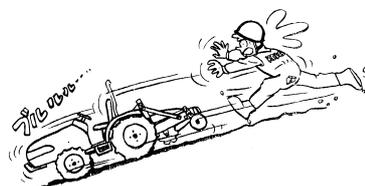
- 10-2 点検のために外した防護カバーは、必ず元の通りに取付けてください。



- 10-3 ラジエータ、マフラは高温になりますので、ヤケドに注意してください。  
 10-4 点検整備に必要な工具類は、適切な管理を行い、正しい使用をしてください。

## 11 トラクタを止めるとき

- 11-1 平らな場所に止めてから、作業機を降ろしてエンジンを止め、駐車ブレーキをかけてください。  
 11-2 傾斜地に止める場合は、タイヤに必ず車止めをしてください。



## 12 その他

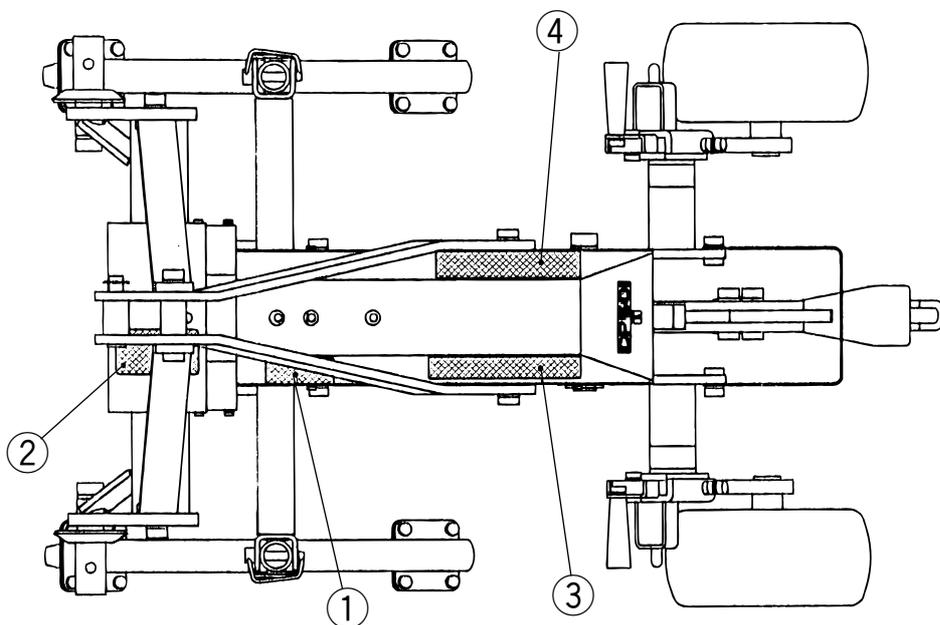
- 12-1 作業機指定のPTO回転数を守ってください。低速回転用の作業機を高速回転で使用すると作業機が異常作動し危険です。  
 12-2 トラクタのエンジン始動時は、作業機が下がっていることを確認してください。作業機が不意に下がることもあり危険です。

## 安全ラベルの取扱い

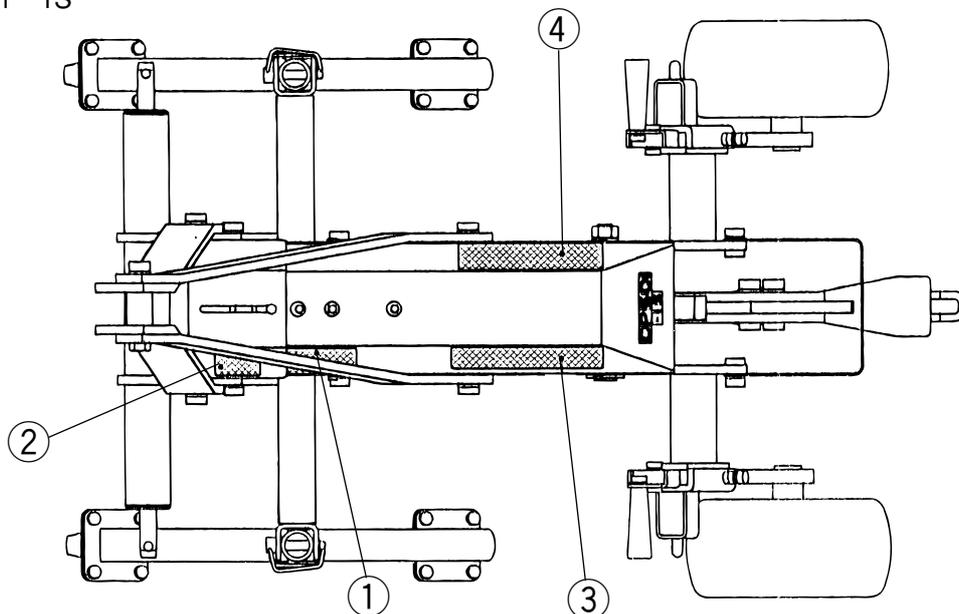
- ① いつも汚れや泥をとり警告がハッキリと見えるようにしてください。
- ② 安全ラベルが損傷したり破損した時は、新しいものと交換してください。
- ③ 安全ラベルを貼ってある部品を交換した時は、必ず新しい部品に、取外した部品と同じ場所に安全ラベルを貼ってください。

シェークドレーナには、次の安全ラベルが貼ってあります。よくお読みになって、理解した上で作業してください。

DP501T



DP501-1S



①

コードNo.9992127

**▲ 危険**



- エンジンまたはジョイントが回転中は、体を近づけないでください。
- 巻き込まれて死傷する恐れがあります。

9992127

②

コードNo.9992126

**▲ 危険**



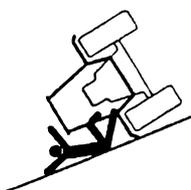
- セフティカバーは、常に装着して使用してください。
- 巻き込まれて、死傷するおそれがあります。

9992126

③

コードNo.9992086

**▲ 警告**



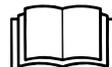
- 転落事故を防ぐためには、発進や登坂時にトラクタの前輪が浮き上がらないように十分な前部ウエイトを取付けてください。
- 作業機にアタッチメントを装着する時には、特にバランスを注意するとともに、アタッチメントの取扱説明書をよく読んで、適切な処置や調整を行ってください。

9992086

④

コードNo.9992087

**▲ 注意**



使用前に取扱説明書をよく読んで安全で正しい作業をしてください。

1. 作業機を着脱するときは、トラクタと作業機の間立たないでください。
2. エンジン始動時や作業中は、周囲の安全を確認し、人がいないか、特に子供には注意し、近づけないようにしてください。
3. 作業機の上に人をのせないでください。
4. 点検整備時には、必ずエンジンを止め、駐車ブレーキをかけて、油圧降下防止用ストップバルブを締めてから行ってください。また、絶対に作業機の下に入って作業をしないでください。
5. ジョイントのノックピンが確実にロックされていることを確認してください。

9992087

# サービスと保証について

## 1 保証書について

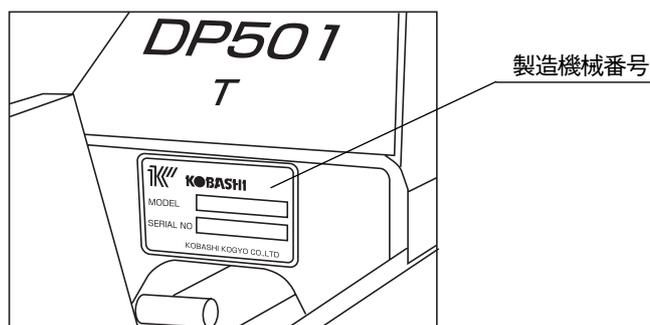
シェークドレーナには保証書が添付してあります。保証書はお客さまが保証修理を受けられる際に必要となるものです。保証内容は保証書をご覧ください。お読みになった後は大切に保管してください。

## 2 アフターサービスについて

機械の調子が悪いときに点検、処置してもなお不具合があるときは、下記の点を明確にして、お買い上げいただいた販売店、農協、弊社営業所までご連絡ください。

その際

- 機械の型式名と製造機械番号
- ご使用状況（作業速度、回転数はいくらで、どんな作業をしていたときに）
- どのくらい使用されましたか（約〇〇アール・約〇〇時間使用后）
- 不具合が発生したときの状況を、できるだけ詳しくお教えてください。



## 補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打切り後9年といたします。

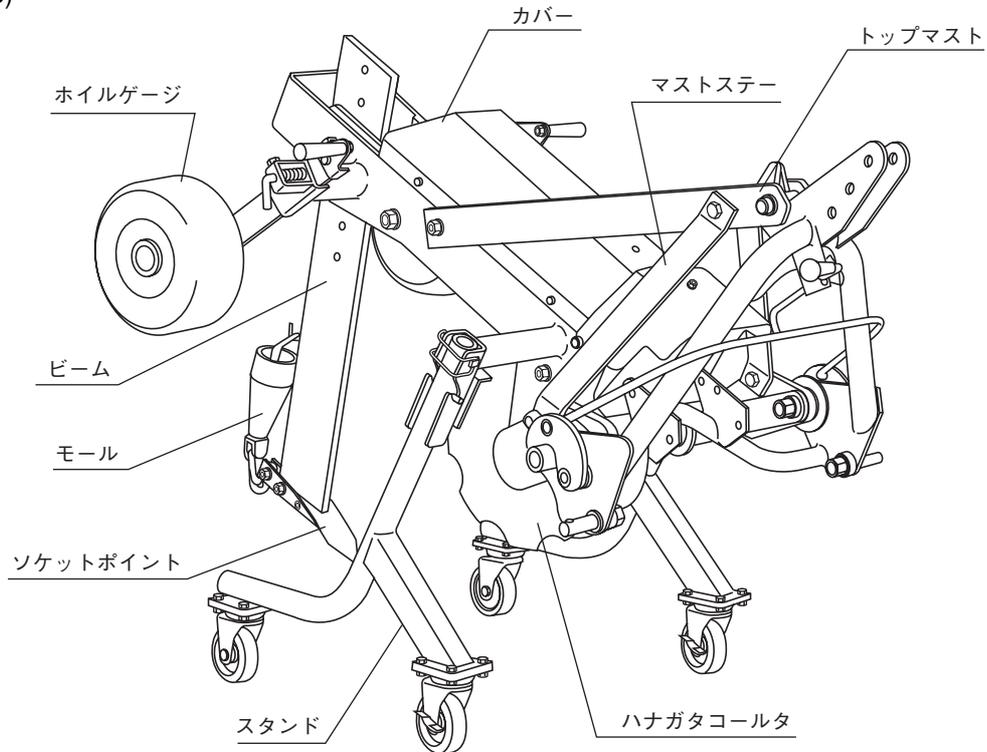
従いまして、その後のご注文に対しては、在庫限りの供給とさせていただきます。

## 純正部品を使いましょう

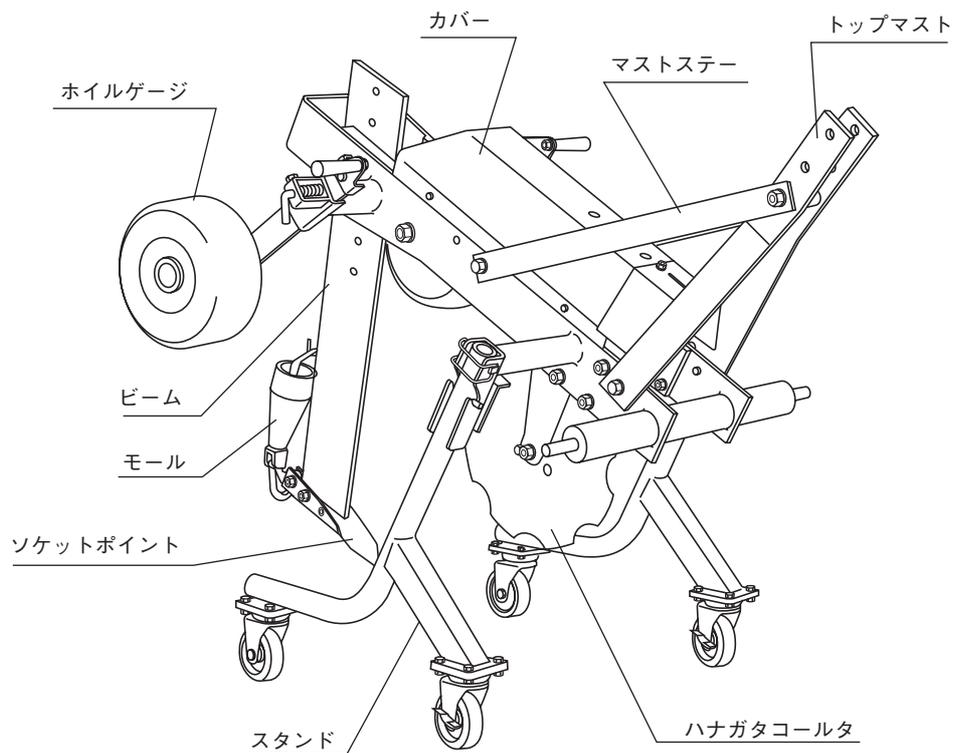
補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買求めください。市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

# 各部の名称

DP501T(-3S)



DP501-1S



# シェークドレーナの組立

## 1. 開梱

シェークドレーナは、木枠梱包されていますので開梱してください。

### ▲ 注意

開梱する時は、丈夫な手袋を着用して行ってください。

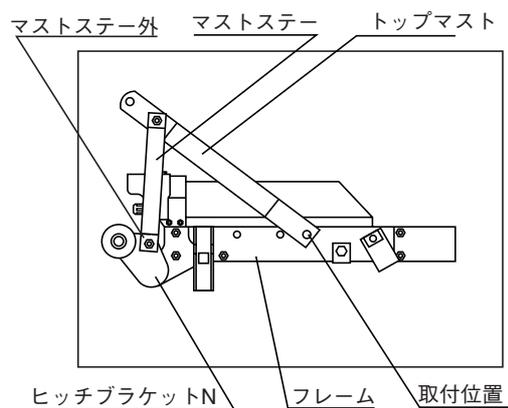
木枠梱包には、スクリュウクギが使用されています。クギの踏み抜きなどないように注意して開梱してください。

2. 下記の部品が本体と分かれていますので、組付けてください。

部品名	数量	摘要
トップマスト	1	
マストステー	2	
ビーム	1	
スタンド	2	キャスト付き
ジョイント	1	4S, 3S, 1Sのみ
オートヒッチ	1	4S, 3Sのみ

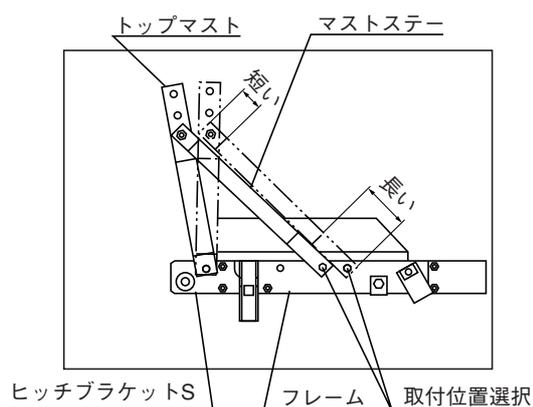
### ① トップマスト・マストステーの取付け (DP501Tの場合)

- 1) トップマストをフレームにM16×45のボルト (2本) で取付けてください。取付位置は下図の位置としてください。
- 2) マストステーをヒッチブラケットNにM16×50のボルト (2本) で取付けてください。
- 3) トップマストとマストステーをM16×120のボルト (2本) で取付けてください。



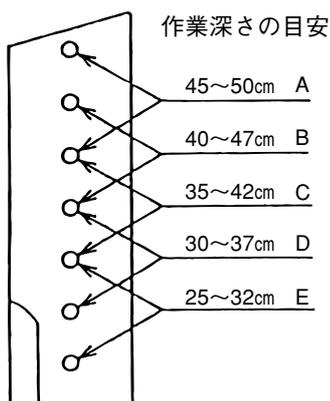
### (DP501-1Sの場合)

- 1) トップマストをヒッチブラケットSにM16×45のボルト (2本) で取付けてください。
- 2) マストステーをフレームにM16×45のボルト (2本) で取付けてください。  
フレームには取付穴が3箇所ありますので、本書のトラクタ別装着表 (P35~43) を参照の上、ご使用のトラクタにあわせて取付けしてください。
- 3) トップマストとマストステーをM16×120のボルト (2本) で取付けてください。



### ② ビームの取付け

ビームは希望の作業深さにより5段階に調節できますが、トラクタへの着脱には下図のC又はD、Eの位置で本体に取付けてください。M16×60のボルト2本で強く締め付けてください。



### お願い

ビームの取付位置A、Bでの使用はご面倒でもトラクタへの装着後に行ってください。  
取付位置A、Bではスタンドを装着してシェークドレーナを地面に置くとビーム先端のソケットポイントと地面とのすきまがなくなり、シェークドレーナを移動する場合多少の凹凸でもソケットポイントが引っかかって作業機が転倒し、ケガをするおそれがあります。

## ジョイントの取付準備

DP501Tの場合

### 取扱上の注意

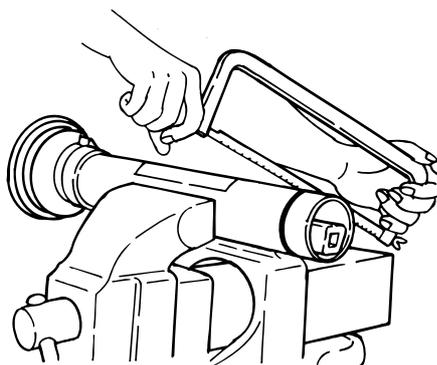
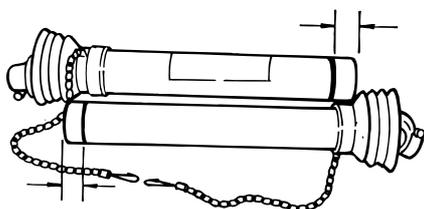
長過ぎるジョイントを装着しますとトラクタPTO軸と作業機の入力軸を突き上げて破損させます。又、短かすぎますと、ジョイントのかみ合わせが不足して、チューブが破損します。

### お願い

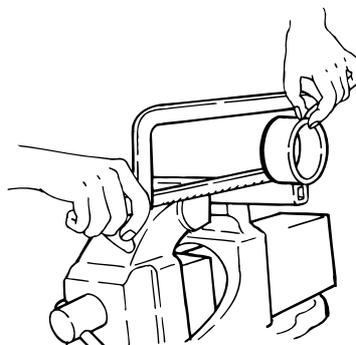
標準のジョイントがトラクタによっては、長い場合があります。トラクタ別装着表(P33~46)を参照の上、切断長さを確認の上、チューブとセフティカバーのオス側メス側を切断してください。

### 1 切断方法

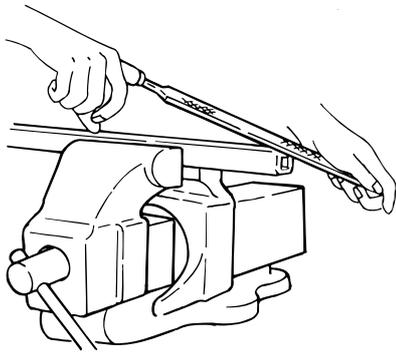
1. 長い分だけセフティカバーをオス、メス両方切りとります。



2. 切りとったセフティカバーと同じ長さでチューブを、金ノコ又は、カッターでオス、メス両方切断します。

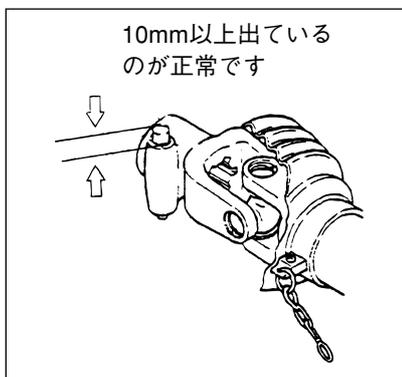


3. 切り口をヤスリでなめらかに仕上げ、切り粉を取除き、グリスを塗布して、オス、メスを組みあわせます。



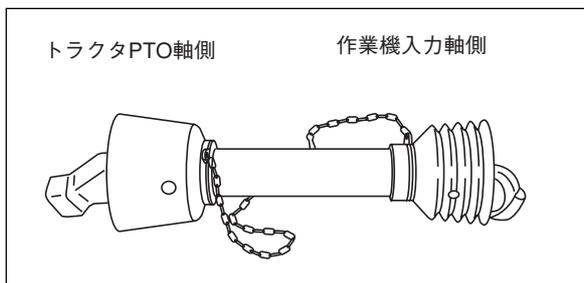
## 2 取付方法

1. ジョイントのノックピンを押しながら軸に挿入、軸の溝にノックピンをはめ込み抜け止めをします。ノックピンが正確に軸溝にはまっているか確認してください。  
 ピンの「頭が10mm以上」出ているか、トラクタ側と作業機側のノックピンを確認してください。



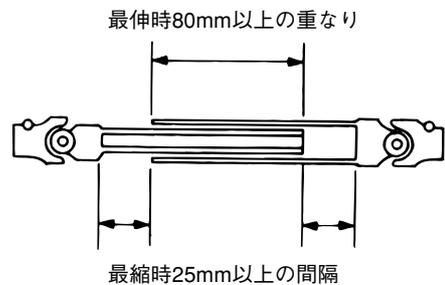
### 2. 広角ジョイントの取付方法

3セットの時に、広角ジョイントを取付ける場合は、必ず、広角側をトラクタPTO軸にセットしてください。

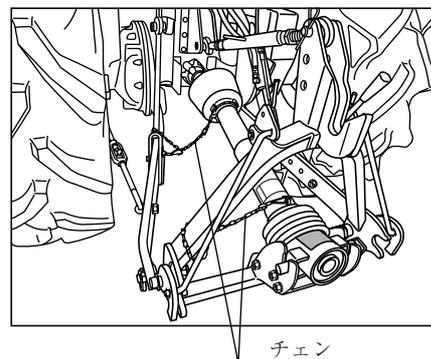


## 3 長さの確認

1. トラクタの3点リンクにオートヒッチを取付け、トップリンクの長さを指定の長さに調節してください。  
 (3セットの場合は、作業機を装着してから次の確認を行います。)
2. 油圧をいっぱいに下げて、4セットジョイントをセットしてください。
3. 徐々に油圧を上げて、ジョイントが一番縮んだ状態でも、軸を突かないことを確認してください。
4. 油圧を上下してカバーのスキマを確認してください。



5. ジョイントセフティカバーのチェンを固定し、回り止めをします。この時油圧をいっぱいに下げてもチェンが緊張しないようにたるみを持たせてください。



### 取扱上の注意

長過ぎるジョイントを装着しますとトラクタPTO軸と作業機の入力軸を突き上げて破損させます。又、短かすぎますと、ジョイントのかみ合わせが不足して、チューブが破損します。

### お願い

標準のジョイントがトラクタによっては、適正な長さでない場合がありますので、トラクタ別装着表 (P33~46) を参照の上、交換してください。

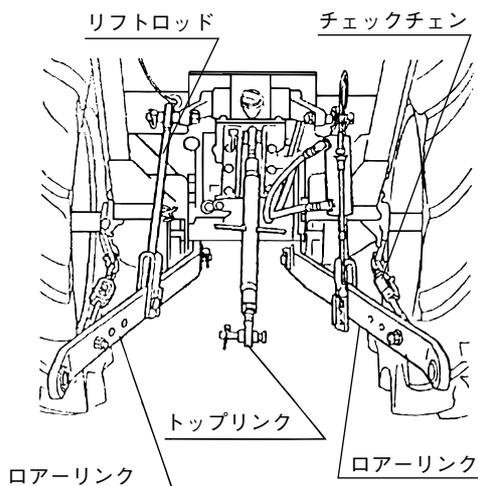
標準セットのジョイントC2B62 は、長過ぎた場合は切断して使用できませんので、適正な長さの物と交換してください。

## トラクタへの装着 (DP501T)

### 1 装着前の準備

#### 1. トラクタの準備

本機の装着方法は標準3点リンク式のヒッチです。もしトラクタに特殊3点リンク式のロータリを装着されている場合は、トップリンクブラケットを外し、トップリンクを標準3点リンク用の長いトップリンクと付け替えてください。又、ドロワーがジョイントに干渉する場合は、ドロワーの位置を変えるか取外しをしてください。

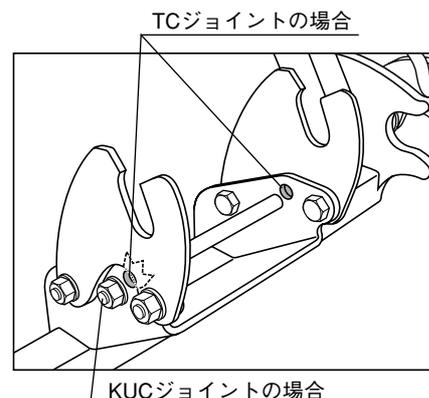
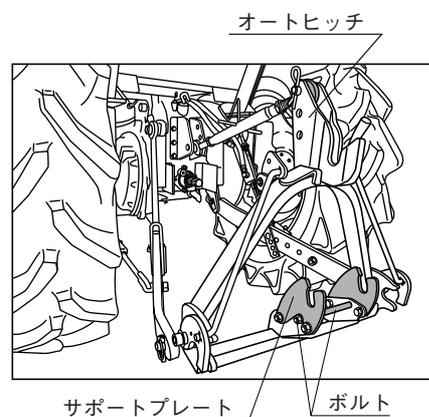


3点リンクの取付位置は、本書のトラクタ別装着表 (P33~46) を参照の上、トップリンク長さやリフトロッド位置を確認、取付けてください。

#### 2. オートヒッチの準備

4セットで使用する場合は、オートヒッチにジョイントをセットするサポートプレート、及び、ボルトが確実に取付けてあることを確認してください。

3セットの場合はサポートプレート、ボルトがないことを確認してください。



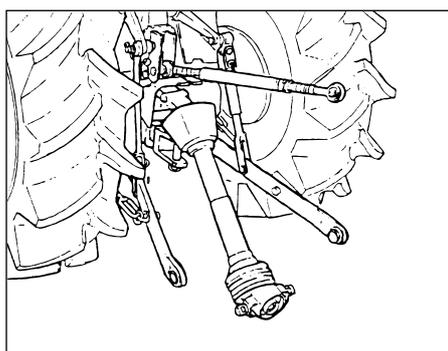
※4セットと3セットの違いはジョイントがオートヒッチアームと同時装着か手で装着するかの違いですので、4セットで説明します。

### 3. オートヒッチの取付け

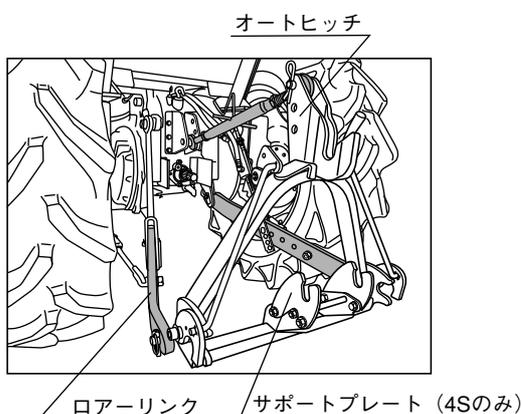
#### ⚠ 警告

トラクタの駐車ブレーキをかけ、又、エンジンを停止し、PTO軸への動力が切れていることを確認してから作業してください。

- ① トラクタのポジションコントロールレバーを下げ、ロアーリンクをいっぱいまで下げます。トラクタのPTO軸にジョイントの広角側を取付け、作業機入力軸側は地面に置いてください。(4セットのみ)



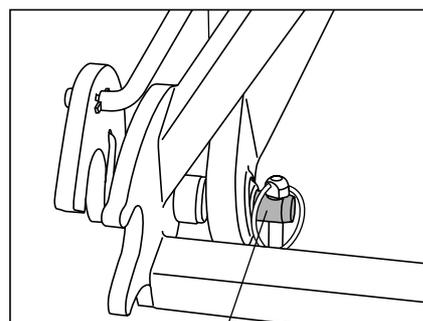
- ② オートヒッチをトラクタのトップリンクに取付けます。  
トップリンクピンはトラクタの付属品を使用してください



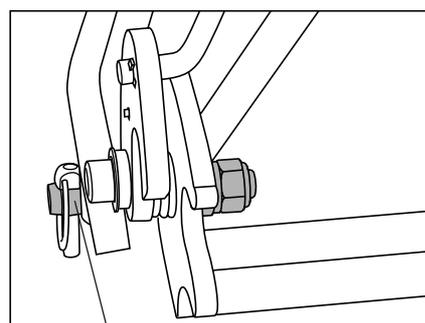
- ③ 左右のロアーリンクにオートヒッチのロアーリンクピンを取付けてください。トラクタの3点リンク規格により、内側セットと外側セットがありますので規格に合わせてセットしてください。

JIS 0……内側セット

JIS 1……外側セット

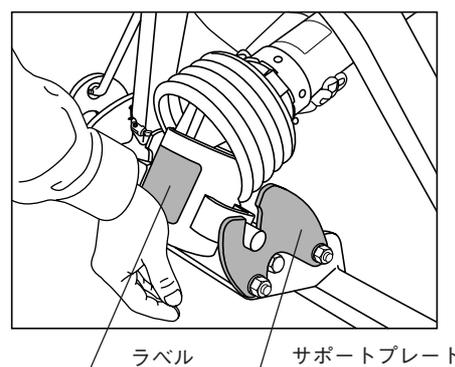


ロアーリンクピン (0形)

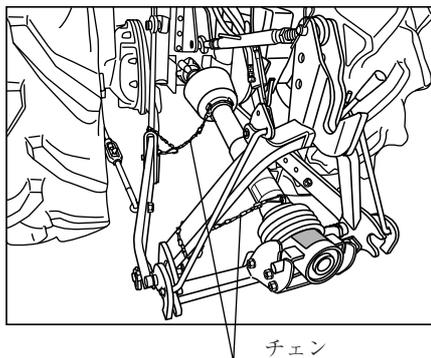


ロアーリンクピン (I形)

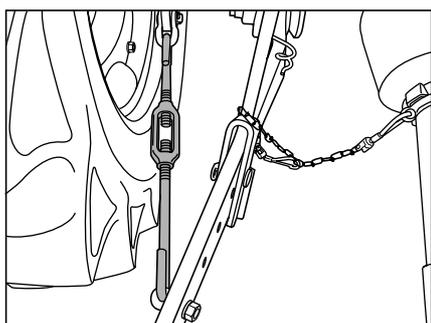
- ④ ジョイントのラベル面を上にし、手でジョイントを折り曲げ、軸の細い部分からサポートプレートの長穴にセットしてください。(4セットのみ)



- ⑤ ジョイントセフティカバーのチェーンを固定し、回り止めをしてください。



- ⑥ チェックチェーンを張ってオートヒッチをトラクタの中心に合わせてください。  
また、ロアーリンクの左右の高さも均等にしてください。



**▲ 注意**

装着が終わりましたら、各部のトメピンやトップリンクの抜け止めが確実になされていることを確認してください。

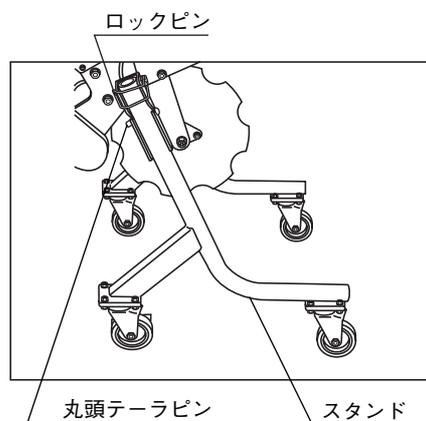
**2** **トラクタへの装着**

**▲ 注意**

1. 平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行ってください。
2. 夜間の場合は適切な照明を用いてください。
3. トラクタと作業機の間には人が入らないよう注意してください。
4. 二人作業の場合は互いに合図しあって作業をしてください。

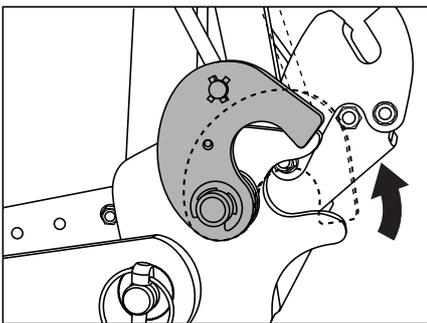
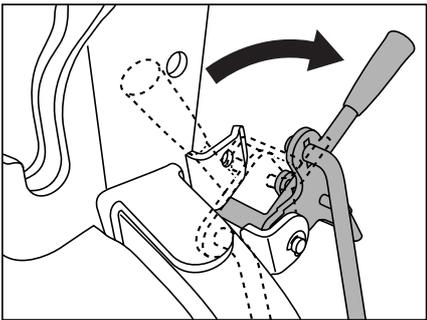
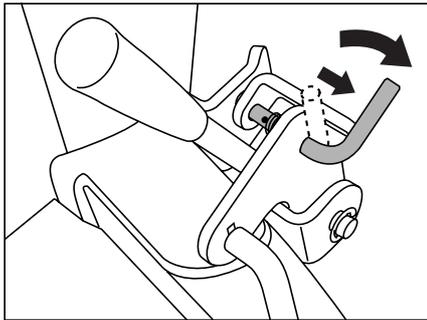
**1. スタンドの取付け**

作業機の両側にスタンドを取付けます。  
取付位置が下図のようになっていることを確認してください。  
取付けは、丸頭テーラピンをホルダのフック部に掛け、ロックピンで固定します。



**2. オートヒッチフックのロックの解除**

装着前に、ロックピンを引いて、イラストのようにロックが解除される位置へセットしてください。  
レバーをトラクタ側に倒し、フックが開いた状態にしてください。



### ▲ 注意

レバーを倒した状態にしたまま、油圧を上下しますとレバーとトラクタが干渉する場合がありますので、干渉に注意して装着を行ってください。

干渉する場合は、干渉しない位置まで下げてからレバーを操作してください。

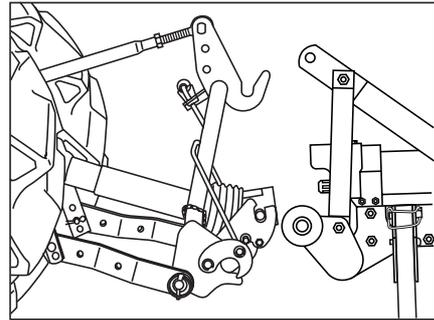
### 3. 取付け

#### ・バックしてヒッチを合わせる

トラクタのPTOの変速はニュートラルにしておいてください。

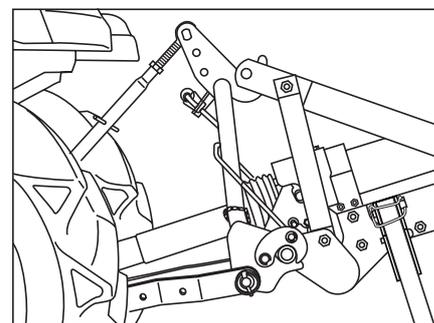
オートヒッチを下げて、トラクタをゆっくり作業機に近づけ、作業機のマスト先端とオートヒッチのトップを合わせます。

この時トラクタと作業機が直角になるようにしてください。



### 4. フックを合わせてリフトアップ

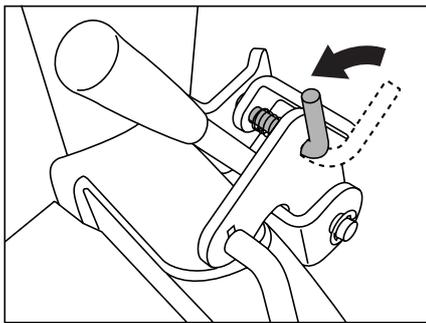
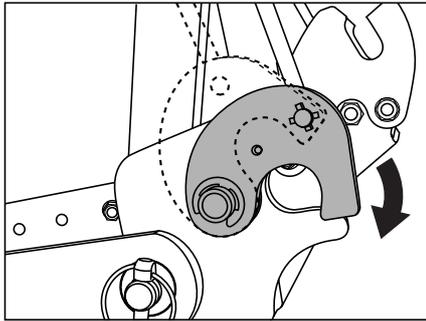
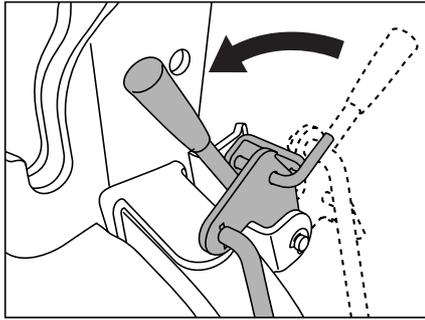
ポジションコントロールレバーを「上げる」にして、作業機をゆっくりとリフトアップすると、オートヒッチのローアフックとジョイントのクラッチ部は自動的に接続、ロックされます。ジョイントが噛み合わなかったりした場合は、ポジションコントロールレバーを下げて一度前進、再度最初からやり直してください。



### 5. フックを閉じてロック

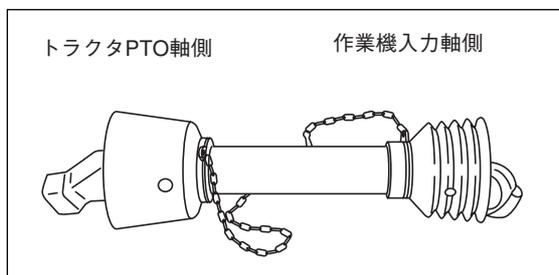
オートヒッチアームのフック部に作業機のガイドカラーが両方とも入っていることを確認してから、オートヒッチアームのレバーを作業機側に倒してフックを閉じます。

レバーについているロックピンをイラストのようにオートヒッチアームのロックプレートに挿入して、不用意に作業機が外れないように確実にロックしてください。



## 6. 広角ジョイントの取付方法

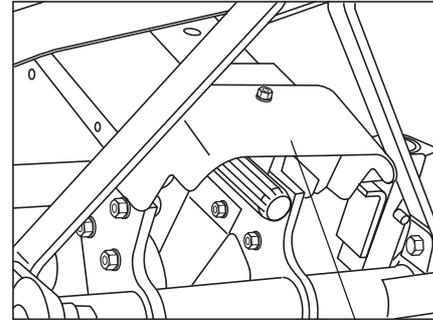
3セットの時に、広角ジョイントを取付ける場合は、必ず広角側をトラクタPTO軸に取付けてください。



ジョイントセフティカバーのチェンを固定し、回り止めをします。この時作業機をいっぱい下げてもチェンが緊張しないようにたるみを持たせてください。

## ▲ 危険

セフティカバーを取外して使用すると、死傷することがありますので、必ず取付けたままで使用してください。



セフティカバー

7. スタンドは取外してください。

## 取扱上の注意

- 最初の装着時には、作業機をゆっくり上げながら、トラクタと作業機が干渉しないか確認してください。特に、キャビン付きトラクタの場合には、背面のガラスを割らないように注意してください。
- トラクタによっては、スイッチひとつで自動で最上部まで上昇する機構がありますが、必ず手で干渉の有無を確認してから使用してください。  
又、作業機が勢いよく上がるため10cm以上の余裕を持って上げ規制をしてください。
- ポジションコントロールレバーを徐々に上げて、ジョイントが一番縮んだ状態でもジョイントが突かないことを確認してください。
- トップリンクやロアーリンクの取付位置及び、リフトロッドやトップリンクの長さを変えた場合にも干渉の有無を確認してください。
- 左右の水平調節についても注意してください。

### 3 装着後のトラクタとの調整

#### 1. チェックチェーンの調整（左右の振れ）

作業機を持ち上げた状態で、作業機の入力軸とトラクタのPTO軸を合わせて、左右の横振れを確認してください。横振れが10mm以内になるように、左右均等にチェックチェーンを張ってください。

#### ▲ 注意

トップリンクの調整は、作業機を接地させて行ってください。トップリンクが抜けて作業機が落下することがあり、危険です。

#### 2. リフトロッドの調整（左右の水平）

作業機を持ち上げ、後方より見て、左右が水平になるように、トラクタのレベリングハンドル、又は、油圧スイッチを操作し、調整してください。

#### 3. ジョイントの異音について

ジョイントと作業機の入力軸とが直線に近いほど異音は少なくなります。

#### 取扱上の注意

作業機を最上位置に上げた状態で回転させますと、異音が発生し、ジョイントに無理がかかり、損傷の原因になります。回転しても振動や、音が出ない位置にポジションコントロールレバーのストッパをセットしてください。

### 4 トラクタからの取外し

#### ▲ 注意

作業機を取外す場合は、平坦で地盤のしっかりした所で、取外しのためのスペースが十分とれるところで行ってください。

#### 1. スタンドの取付け

作業機を持ち上げて、両側にスタンドを取付けます。（装着と同じ状態にします。）

#### 2. ジョイントの取外し（3セットのみ）

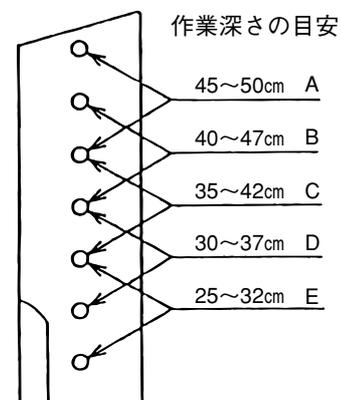
ジョイントセフティカバーのチェーンを外し、ジョイントのロックピンを押しながらジョイントを外してください。

#### ▲ 警告

トラクタの駐車ブレーキをかけ、又、エンジンを停止し、PTO軸への動力が切れていることを確認してから作業してください。

#### 3. ビーム取付位置の確認

ビームの取付位置が下図のC、D、Eのいずれかであることを確認してください。A、Bにてついている場合はC、D、Eのいずれかの位置に変更してください。

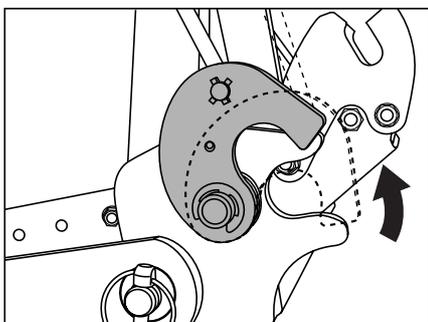
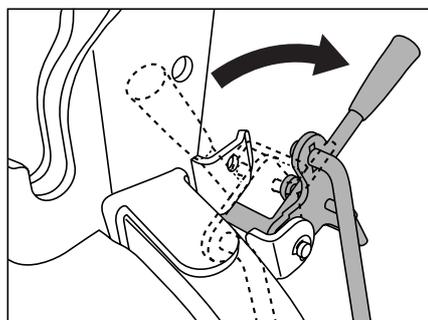
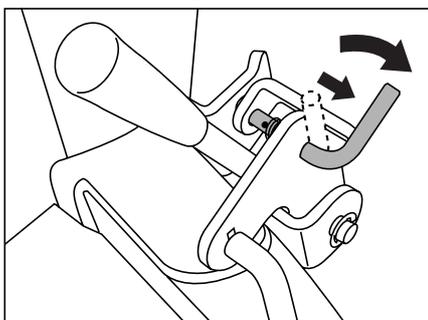


取付位置A、Bではスタンドを装着してシェークドレーナを地面に置くとビーム先端のソケットポイントと地面とのスキマがなくなり、シェークドレーナを移動する場合多少の凹凸でもソケットポイントがひっかかり作業機が転倒し、ケガをする恐れがあります。

#### 4. オートヒッチフックのロックの解除

作業機をリフトアップしてからロックピンを引いて、イラストのようにロックが解除される位置へセットしてください。

レバーをトラクタ側に倒し、フックが開いた状態にしてください。



#### ▲ 注意

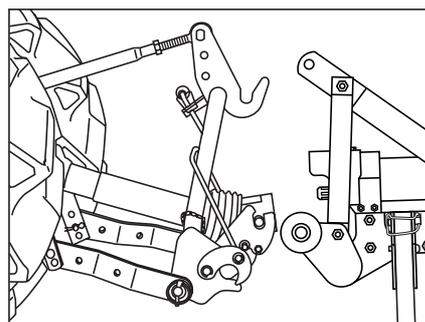
レバーを倒した状態にしたまま、油圧を上下しますとレバーとトラクタが干渉する場合がありますので、干渉に注意して装着を行なってください。

干渉する場合は、干渉しない位置まで下げたからレバーを操作してください。

#### 5. 作業機を下げる

ポジションコントロールレバーを「下げる」にして、作業機を下げるとローフック部は外れます。

次にポジションコントロールレバーを下げながらトラクタをゆっくり前進させると作業機は外れます。



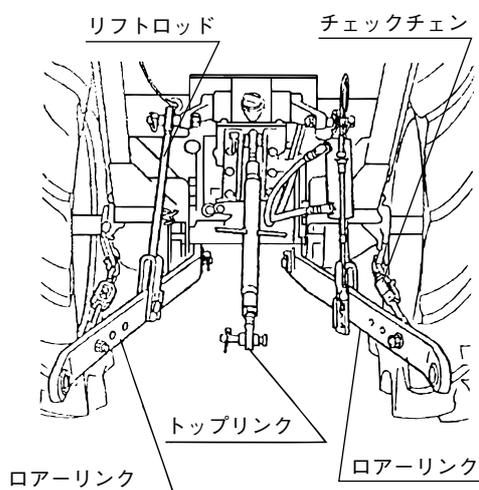
◆外れない場合は、場所が平坦でないとか、トラクタがまっすぐ前進していないなどの原因がありますので再度、動作をやり直してください。

# トラクタへの装着 (DP501-1S)

## 1 装着前の準備

### 1. トラクタの準備

本機の装着方法は標準3点リンク式のヒッチです。もしトラクタに特殊3点リンク式のロータリを装着されている場合は、トップリンクブラケットを外し、トップリンクを標準3点リンク用の長いトップリンクと付け替えてください。又、ドロバーがジョイントに干渉する場合は、ドロバーの位置を変えるか取外しをしてください。



3点リンクの取付位置は、本書のトラクタ別装着表 (P33~46) を参照の上、トップリンク長さやリフトロッド位置を確認、取付けてください。

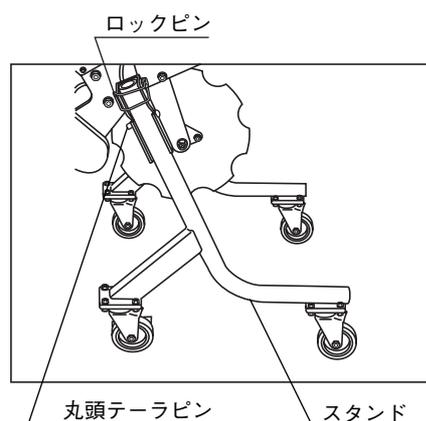
## 2 トラクタへの装着

### ▲ 注意

1. 平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行ってください。
2. 夜間の場合は適切な照明を用いてください。
3. トラクタと作業機の間には人が入らないよう注意してください。
4. 二人作業の場合は互いに合図しあって作業をしてください。

### 1. スタンドの取付け

作業機の両側にスタンドを取付けます。取付位置が下図のようにになっていることを確認してください。取付は、丸頭テラピンをホルダのフック部に掛け、ロックピンで固定します。



### 2. 作業機の取付け

- ① トラクタを作業機の中心に合わせ後退してください。
- ② トラクタのロアーリンクを作業機のヒッチに挿入してください。後方より見て左側ロアーリンクを取付け、続いて右側を、リフトロッド長さを調節して取付けてください。
- ③ トップリンクを作業機トップマストの上部の穴に取付けます。この作業機には、トップリンク取付穴が上下2ヶあります。本書のトラクタ別装着表 (P33~46) を参照の上、取付けてください。
- ④ トップリンク長さを本書のトラクタ別装着表 (P33~46) を参照の上、調整してください。

### ▲ 注意

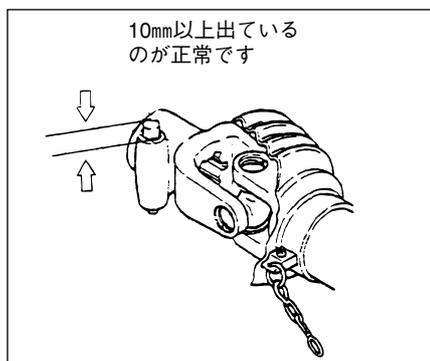
トップリンクの調整は、作業機を接地させて行ってください。トップリンクが抜けて作業機が落下することがあり危険です。

## ⚠ 警告

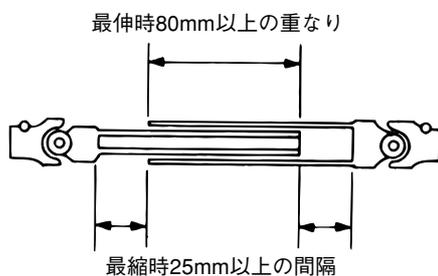
トラクタの駐車ブレーキをかけ、又、エンジンを停止し、P T O軸への動力が切れていることを確認してから作業してください。

### 3. ジョイントの取付け

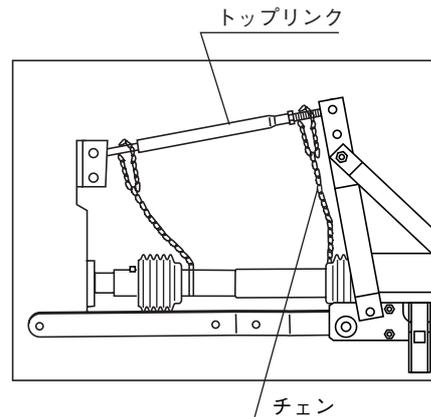
- ① ジョイントのノックピンを押しながら軸に挿入、軸の溝にノックピンをはめ込み抜け止めをします。ノックピンが正確に軸溝にはまっているか確認してください。  
ピンの「頭が10mm以上」出ているかトラクタ側と作業機側のノックピンを確認してください。



- ② 徐々に油圧を上げてジョイントが縮んだ状態でも、軸を突き上げないことを確認してください。  
油圧を上下してカバーのスキマを確認してください。



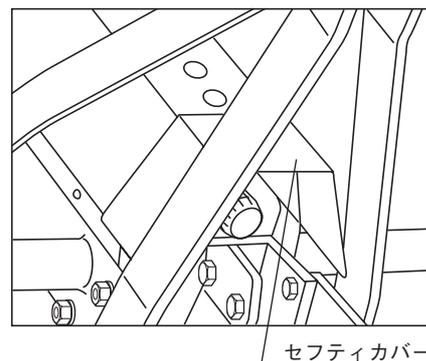
ジョイントセフティカバーのチェーンを固定し、回り止めをします。この時油圧をいっばい下げてもチェーンが緊張しないようにたるみを持たせてください。



### 4. セフティカバーの取付け

## ⚠ 危険

セフティカバーを取外して使用すると、死傷することがありますので、必ず取付けたままで使用してください。



### 5. スタンドは外してください。

## ⚠ 注意

装着が終わりましたら、各部のトメピンやトップリンクの抜け止めが確実になされていることを確認してください。

## 取扱上の注意

1. 最初の装着時には、作業機をゆっくり上げながら、トラクタと作業機が干渉しないか確認してください。特に、キャビン付きトラクタの場合には、背面のガラスを割らないように注意してください。
2. トラクタによっては、スイッチひとつで自動で最上部まで上昇する機構がありますが、必ず手で干渉の有無を確認してから使用してください。  
又、作業機が勢いよく上がるため10cm以上の余裕を持って上げ規制をしてください。
3. ポジションコントロールレバーを徐々に上げて、ジョイントが一番縮んだ状態でもジョイントが突かないことを確認してください。
4. トップリンクやロアーリンクの取付位置及び、リフトロッドやトップリンクの長さを変えた場合にも干渉の有無を確認してください。
5. 左右の水平調節についても注意してください。

## 3 装着後のトラクタとの調整

1. チェックチェンの調整（左右の振れ）  
作業機を持ち上げた状態で、作業機の入力軸とトラクタのPTO軸を合わせて、左右の横振れを確認してください。横振れが10mm以内になるように、左右均等にチェックチェンを張ってください。
2. リフトロッドの調整（左右の水平）  
作業機を持ち上げ、後方より見て、左右が水平になるように、トラクタのレベリングハンドル、又は、油圧スイッチを操作し、調整してください。

## 3. ジョイントの異音について

トラクタのPTO軸と作業機の入力軸とが水平に近いほど異音は少なくなります。

## 取扱上の注意

作業機を最上位置に上げた状態で回転させますと、異音が発生し、ジョイントに無理がかかり、損傷の原因になります。回転しても振動や、音がでない位置にポジションコントロールレバーのストップをセットしてください。

## 4 トラクタからの取外し

### ▲ 注意

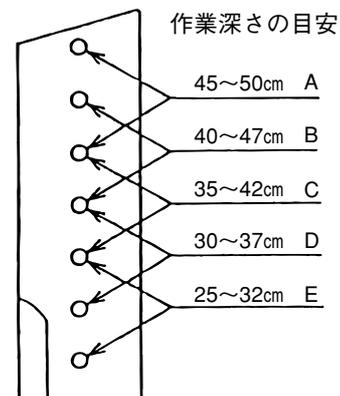
作業機を取外す場合は、平坦で地盤のしっかりした所で、取外しのためのスペースが十分とれるところで行ってください。

## 1. スタンドの取付け

作業機を持ち上げて、両側にスタンドを取付けます。(装着と同じ状態にします。)

## 2. ビーム取付位置の確認

ビームの取付位置が下図のC、D、Eのいずれかであることを確認してください。A、Bにてついている場合は、C、D、Eのいずれかの位置に変更してください。



取付位置A、Bではスタンドを装着してシェークドレーナを地面に置くとビーム先端のソケットポイントと地面とのスキマがなくなり、シェークドレーナを移動する場合多少の凹凸でもソケットポイントがひっかかり作業機が転倒し、ケガをする恐れがあります。

### 3. 作業機を下げる

トラクタのポジションコントロールレバーを「下げる」にして作業機を下げ、接地させます。

#### 警告

トラクタの駐車ブレーキをかけ、又、エンジンを停止し、P T O軸への動力が切れていることを確認してから作業してください。

### 4. ジョイントの取外し

ジョイントセフティカバーのチェンを外し、次に、ジョイントのノックピンを押しながらジョイントを外してください。

### 5. トップリンクの取外し

トップリンクに力がかからなくなるまで長さを調整し、ネジが軽くなったところで、トップリンクを外してください。

### 6. 作業機の接地

スタンドのキャストが全て接地するまで作業機を再度下げてください。

### 7. ロアーリンクの取外し

トラクタのチェックチェンをゆるめてください。リフトロッドの長さを調整して、ロアーリンクを外してください。

# 作業前の点検

作業機の正常な機能を発揮させるため、又、故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。

下記の始業点検は毎日欠かさず行ってください。

## ▲ 注意

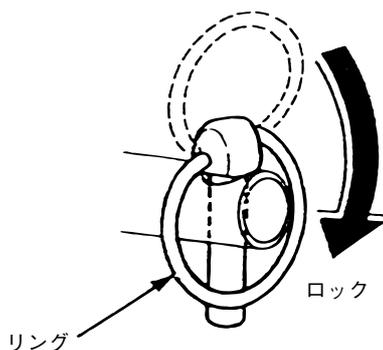
1. 点検は平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行ってください。
2. トラクタのエンジンを止め、駐車ブレーキをかけてから行ってください。
3. 作業機は地面におろしてから行ってください。作業機を持ち上げた状態で点検する必要がある場合は、油圧をロックし、落下防止をするとともに、台などを耕うん軸の下に置き、作業機が絶対落下しないようにしてから行ってください。

## 1 各部のボルト・ナットのゆるみ

各部のボルト・ナット類に緩みはないか、増し締めしながら点検してください。

尚、新品の場合は使用1時間で点検を行ってください。

又、ピン類も全てそろっていることを確認し、リンチピンのリングが確実にロックされていることも確認してください。

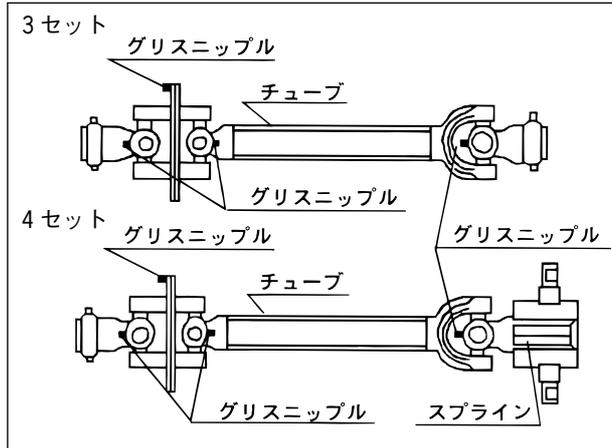


## 2 ジョイントへのグリスアップ

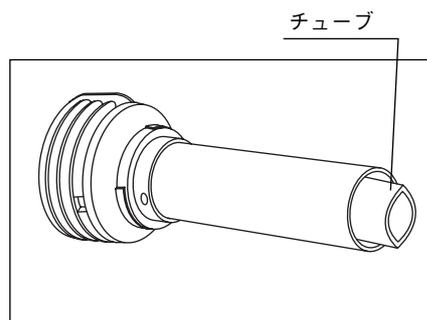
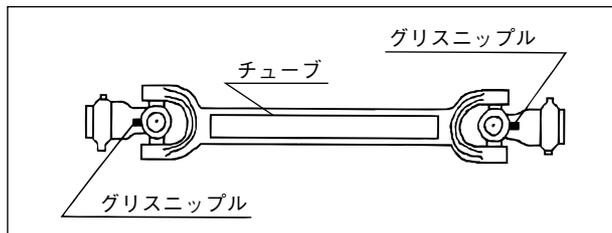
ジョイントの各部にグリスアップしてください。

- ① グリスニップル
- ② チューブ

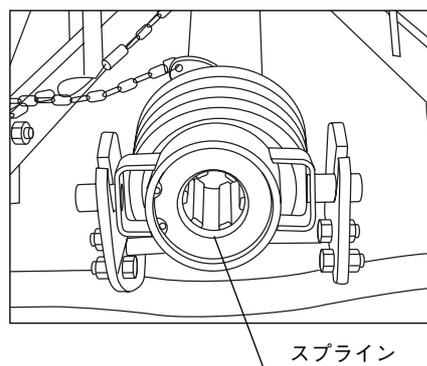
### DP501T



### DP501-1S



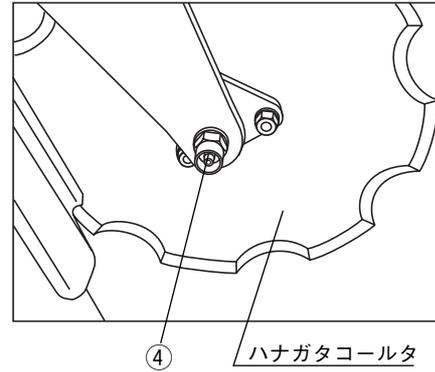
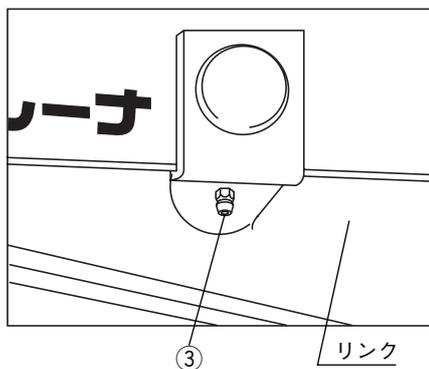
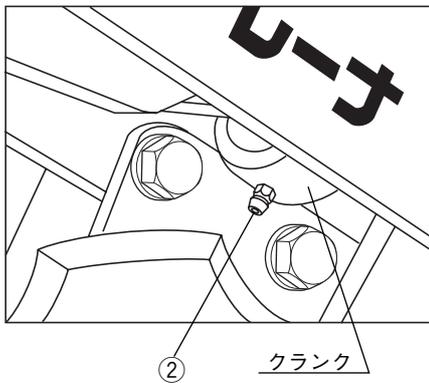
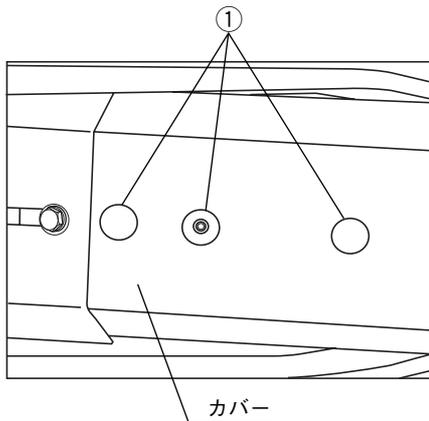
### DP501T (4セットのみ)



### 3 グリス給油箇所

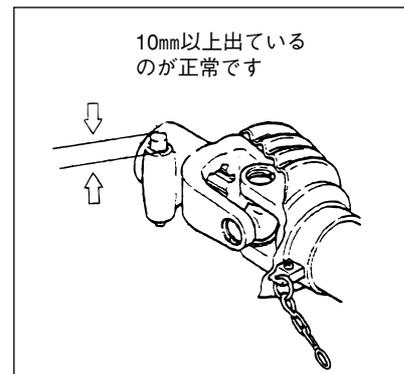
コバシシェークドレーナは、出荷時にグリスアップしておりますが、念のため確認してください。もし、未給油のものがありましたら給油してください。グリス給油箇所は下記の通りです。(新日本石油エピノック2番又は同等品)

- ① カバー内駆動部3ヶ所
- ② クランク下部
- ③ リンク支持部
- ④ ハナガタコールタ中心部



### 4 ジョイントのノックピン

ノックピンが正確に軸溝にはまっているか確認してください。ピンの「頭が10mm以上」出ているか、トラクタ側、作業機側のノックピンを確認してください。



### 5 空転、暖機運転

作業前には空転させ、各部より異音が発生していないか確認してください。

又、暖機運転を5～10分行ってください。

## 移動、圃場への出入り

### ▲ 警告

1. 移動の際は、作業機を持ち上げ、油圧ロックをし、作業機の回転を止めてください。又、チェックチェーンも確実に張れているか確認してください。
2. トラックへの積み込み、坂の登りにトラックの前輪が浮き上がるとハンドルが利かず危険です。フロントウェイトを着けて作業機を下げて登ってください。
3. 前後、左右に気をくばり、安全を確認しながら走行してください。高速運転、急発進、急ブレーキ、急旋回はしないでください。
4. 圃場に入るときは、必ず前進で速度を下げて、畦や段差に対して直角に進んでください。畦畔が高い時は、丈夫で滑り止めのあるアユミ板を使用し、傾斜角が14度以下になるようにしてください。

# 上手な作業の仕方

## ▲ 注意

1. 運転中は危険ですから、トラクタ及び作業機の周囲には、補助作業員や、他の人を絶対に近づけないようにしてください。
2. 作業機を調整、整備する場合や、ディスクコルタ等への草、ワラのからみ付きを取り除く場合は必ず、トラクタの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、PTO軸への動力の伝達が切れていることを確認した上で行ってください。
3. 畦畔での作業は、作業機を畦に引っかけないように、ゆっくりと注意して行ってください。
4. 傾斜地での急旋回は転倒の危険があります。ゆっくりと注意して行ってください。

## 1 作業速度とPTO軸回転速度

作業速度はトラクタのタイヤがスリップしないように目標の作業深さが得られるように圃場条件に合わせて決めてください。

PTO軸回転速度は700rpm以下で作業してください。

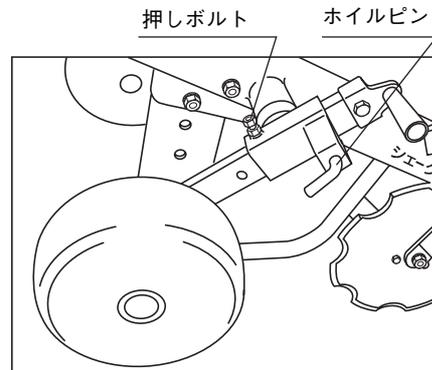
## 取扱上の注意

PTOクラッチは作業機を地面ギリギリまで下げてから入れてください。

## 2 作業深さの調整

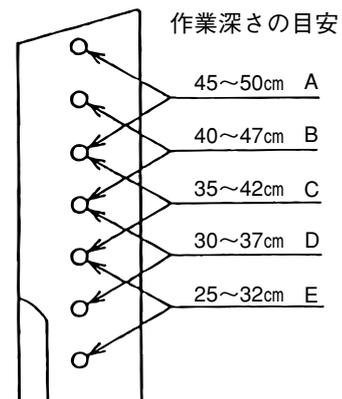
### 1. ホイルゲージの調節

ホイルゲージを上下して希望の作業深さを選びます。調節は押しボルトをゆるめホイルピンを抜いてホイルゲージを上下してください。調節後は振動音防止のために押しボルトを締め込んでください。



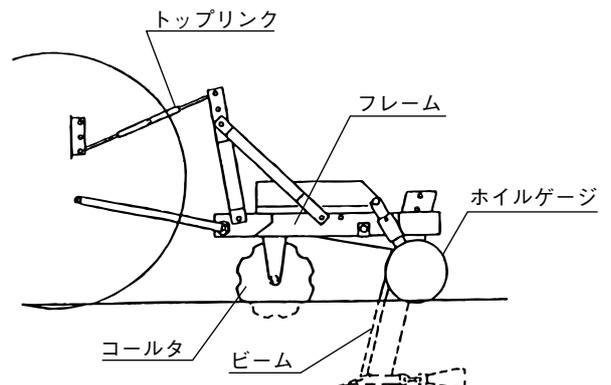
### 2. ビームの調節

ビームの取付位置は5段階に調節できます。ホイルゲージの調節で希望の作業深さが得られない場合、ビームの取付位置を下図の作業深さの目安を参考にして変更してください。



### 3 作業姿勢の調整

シェークドレーナのフレームと地面が平行になるようにトップリンクの長さを調節してください。

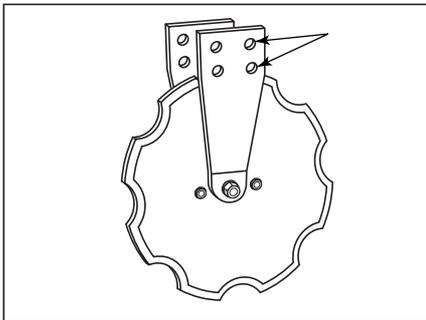


### ▲ 注意

トップリンクの調整は作業機を接地させてから行ってください。トップリンクが抜けて作業機が落下することがあり危険です。

## 4 ハナガタコールドラの調整

ハナガタコールドラの取付位置は上下2段階に調節できます。地中に7～12cm程度入るように調整してください。取付ボルトを外して調整してください。



## 5 作業上の注意

- ① シェークドレーナが地中に入ったらできるだけまっすぐに進んでください。作業中に急ハンドルをきると故障の原因となります。
- ② トラクタのタイヤがスリップしたり、深く入らない場合は、作業速度を下げてください。それでも深く入らない場合は、シェークドレーナの姿勢を地面と平行より少し前傾きになるようにトップリンクを縮めてみてください。
- ③ シェークドレーナを地中より抜く場合、トラクタの油圧力のみで持ち上がらない場合があります。この場合にはPTOクラッチを入れ、ビームを振動させながらゆっくりとポジションコントロールレバーをあげてください。

### ▲ 注意

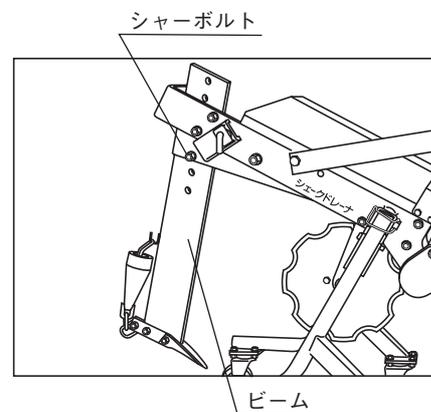
シェークドレーナを地中から抜く時は急にポジションコントロールレバーを上げないでください。地上に出てから急に持ち上がり危険です。

## 取扱上の注意

シェークドレーナを接地させるときはトラクタの油圧をゆっくりと下げてください。急激に下げるとモールがビームの下に入り込んだとき、チェン及びソケットポイントが損傷する場合があります。

## 6 シャーボルトの組付け

作業中に地中にある石等の異物によりシャーボルトが切断した場合は附属のシャーボルトと交換してください。



## 取扱上の注意

シャーボルトは必ず純正部品を使用してください。規格の違うボルトを使用されると機械を損傷させる場合があります。

# 保守・点検

機械を長持ちさせるためには、普段の保守、点検が大切です。

## ▲ 注意

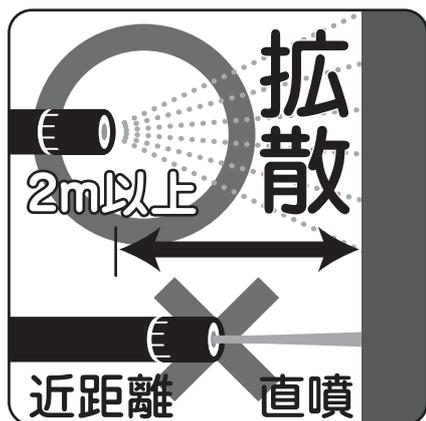
トラクタの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止して、油圧ロックを行い、かつ、台等を作業機の下に置き、作業機が落下しないようにしてから行ってください。

1. 作業終了後は、きれいに水洗いを行い、水分を拭き取っておいてください。

## ▲ 注意（高圧洗車機）

機械を損傷させないように洗車ノズルは拡散にし、2 m以上離して洗車してください。もし、直射や不適切に近距離から洗車すると機械の破損・損傷・故障や事故の原因になります。

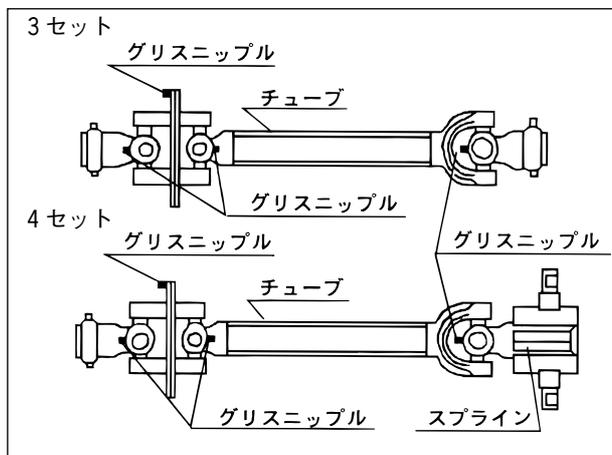
- 例
- 1) シール・ラベルの剥がれ
  - 2) 樹脂類（カバーなど）の破損
  - 3) 塗装・メッキ皮膜の剥がれ



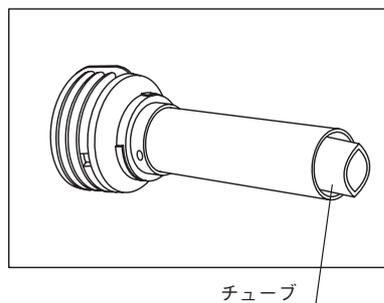
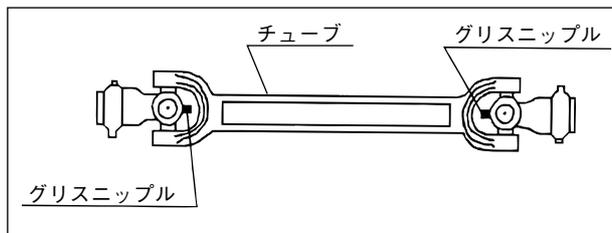
## 2. グリスの給油

- ① ジョイントは分解して、スリーブのかみ合い部分にグリスを塗布してください。又、同時にグリスニップルに適量注入してください。

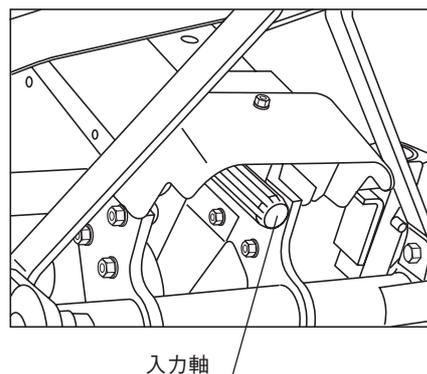
### DP501T



### DP501-1S



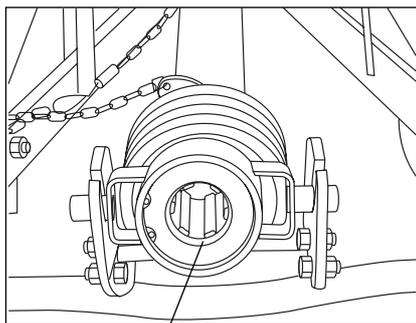
- ② トラクタのPTO軸と作業機の入力軸へもグリスを塗布し、格納する場合はキャップをかぶせて、サビないようにしてください。



## 取扱上の注意

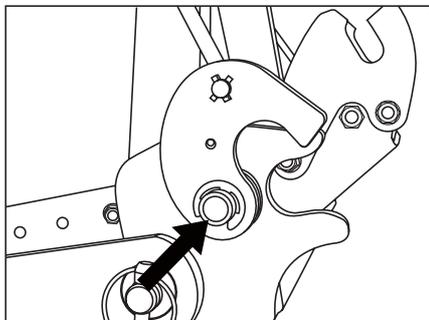
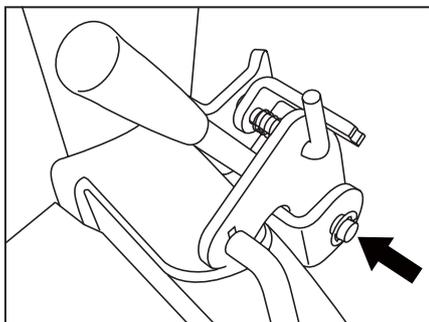
特に4セットジョイントの場合は、スプライン部がサビたり、キズついたりしますと、装着ができなくなりますので、必ず掃除を行い、グリスを塗布し、ゴミがかからないようにしてください。

### DP501T (4セットのみ)



スプライン

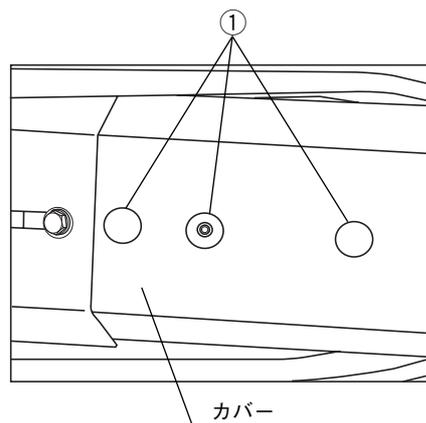
- ③ オートヒッチの各支点部分にオイルを適量塗布してください。



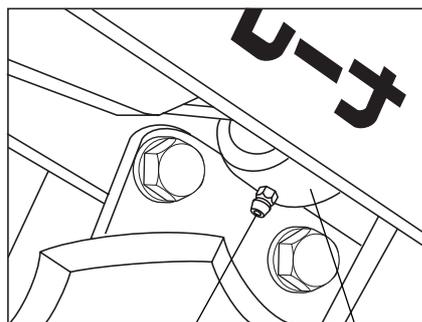
- ④ シュークドレーナの下記部分にグリスを給油してください。

(新日本石油エピノック 2 番又は同等品)

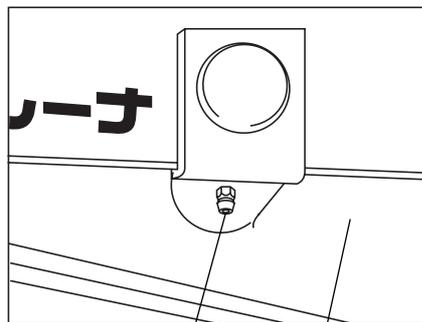
- ① カバー内駆動部 3ヶ所
- ② クランク下部
- ③ リンク支持部
- ④ ハナガタコールドタ中心部



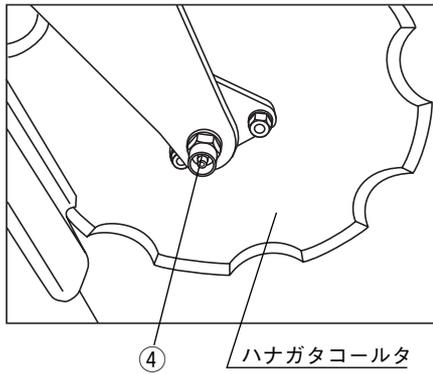
カバー



② クランク

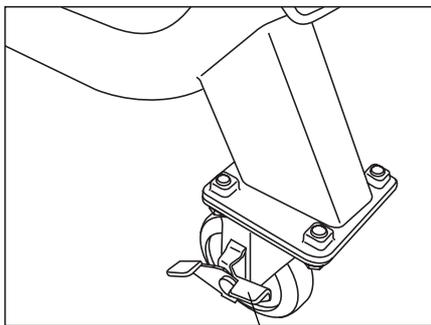


③ リンク



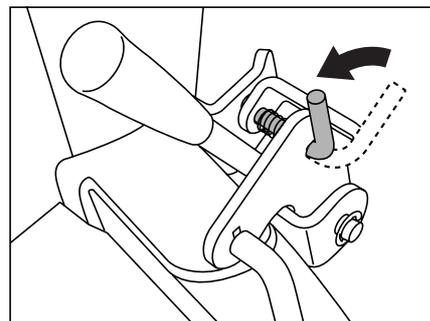
## 保管・格納

1. 平坦で地盤のしっかりした、屋根のある場所に格納してください。
2. スタンドキャスタのブレーキは必ずロックしておいてください。



スタンドキャスタロック

3. オートヒッチを作業機に取り付けて保管する場合は、レバーについているロックピンをイラストのようにオートヒッチアームのロックプレートに挿入して、不用意に作業機が外れないように確実にロックしてください。



4. 格納後は、みだりに子供などが触れないような処置をしてください。

# 主要諸元

型 式		DP501T-4S	DP501T-3S	DP501T-0S	DP501-1S
機 体 寸 法	全 長 (mm)	1400 (1260)	1400 (1260)	1220 (1170)	1320 (1140)
	全 幅 (mm)	780 (780)	780 (780)	780 (780)	780 (780)
	全 高 (mm)	1090 (1310)	1090 (1310)	1090 (1160)	1090 (1300)
機 体 質 量 (kg)		178	175	142	141
適 応 ト ラ ク タ		(KW)	14.7～33.1		
		(PS)	20～45		
装 着 装 置 の 種 類		日農工標準オートヒッチ 0,1形			標準3点リンク 直装
作 業 深 さ (cm)		25～50			
入 力 軸 回 転 速 度 (r.p.m)		540～700			
作 業 深 さ 調 節 機 構		後ゲージ輪			
標 準 作 業 速 度 (km/h)		1.0～5.0			
作 業 能 率 (分/100m)		1.2～6			
モ ー ル 径 (mm)		80			

※.この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

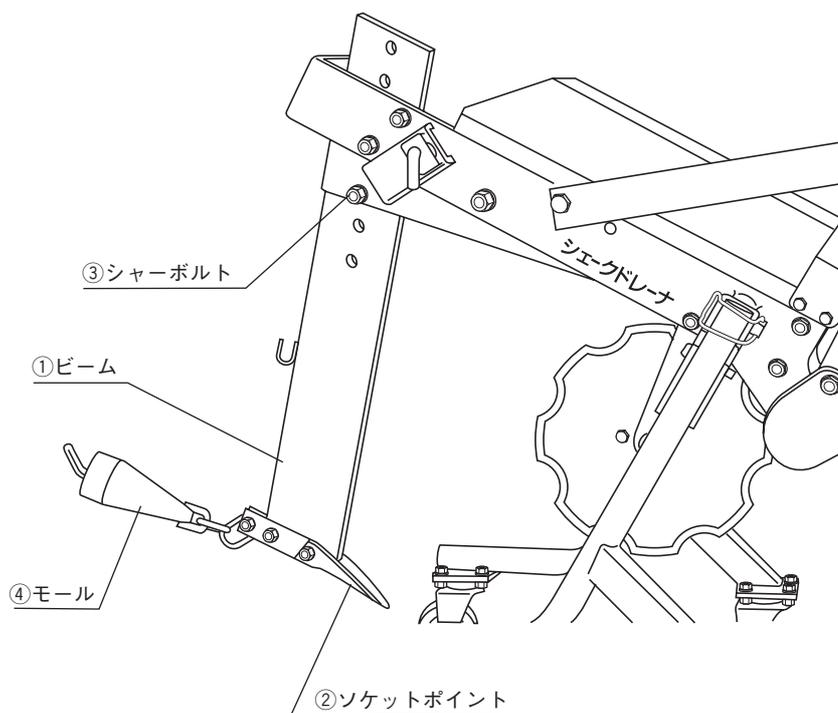
機体寸法は作業深さを35cm程度にビームをセットしたときの値を示す。

( ) の寸法は作業時の値を示す。

型 式 名	装 着 方 法
DP501T	トラクタへの取付けがワンタッチでできる日農工標準3Pオートヒッチを採用しています。このオートヒッチの装着方法は4セット・3セット・0セットの3種類があります。
DP501T-4S	ローリンク（左右）、トップリンクの3点とジョイントが同時に装着できる4点オート装着方式です。
DP501T-3S	3点リンクのみオート装着方式でジョイントは従来通り手で装着します。なお、4セット用ジョイントを別に購入いただければ4セットオートヒッチになります。
DP501T-0S	ヒッチ区分が同じならばオートヒッチ・ジョイントが共用できますから、オートヒッチ・ジョイントは装備されていません。2台目用の作業機です。
DP501-1S	トラクタ側のローリンク・トップリンクへ作業機を直接装着します。

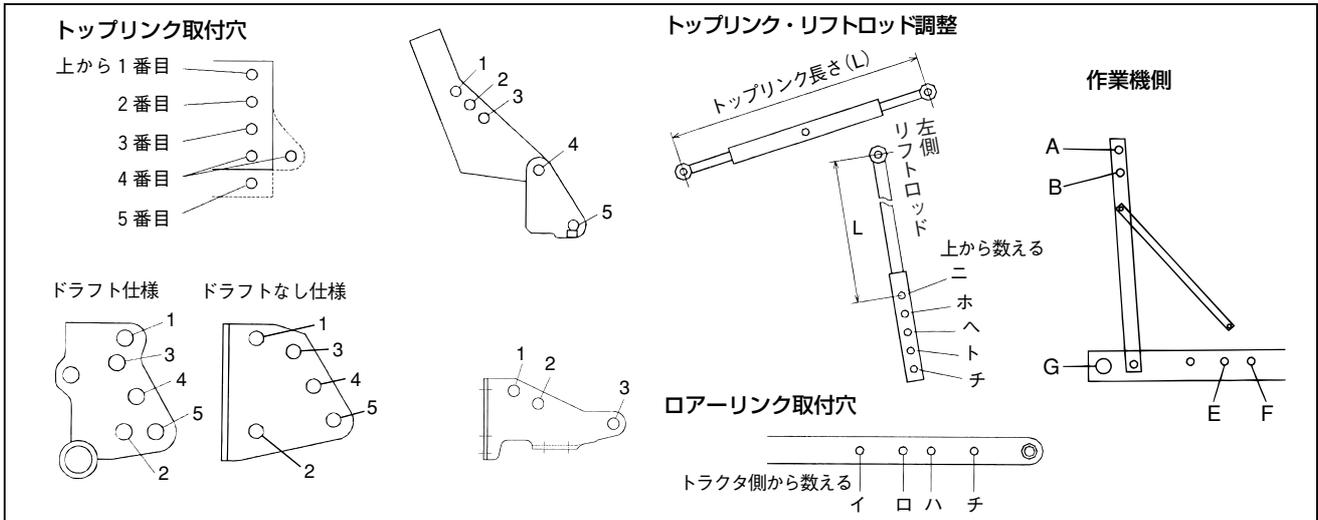
# 消耗部品

- ① ビーム
- ② ソケットポイント
- ③ シャーボルト
- ④ モール



# トラクタ別装着表 (DP501-1S)

※この表はあくまでマッチング表であり、トラクタ適応馬力を示すものではありません。トラクタ適応馬力の範囲内で御使用ください。  
また、本作業機トラクタ別装着表にお客様のトラクタ型式が載っていない場合は、お買い求めの販売店へお問い合わせください。



トラクタ型式	トラクタ部の調整				オートヒッチ			ジョイント 切断寸法(mm) C <sub>2</sub> B-62	備考
	トップリンク 取付穴	ロアー リンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップリンク 長さ(mm)	トップリンク 取付穴	ロアー リンク 取付穴	マスト ステー 取付穴		
GT-3・5・8	1	イ	へ	520	A	G	E		
T 200・220・240 T 22 GT-19(J)・21(J)・23(J)・26	1	イ	へ	560	A	G	E		
GT-26J・30(J)	3	イ	ト	570	A	G	E		
GL-200・201・220・221 GL-240・241 GL-19・21・23	1	イ	ホ	550	A	G	E		
GL 240DJ・260・268・280 GL-23DJ・25・26・27 GL 241DJ・261・277・281	1	イ	ニ	600	B	G	E		
GL 280Q・280DJ(Q)・300(Q) GL 281Q・281DJ(Q)・301(Q) GL 321(Q)・337(Q) GL 320(Q)・338(Q)・GL 33(Q) GL 27DJ(Q)・29(Q)・32(Q)	1	イ	ニ	680	A	G	E		
GL 368(Q)・418(Q)・417(Q)	1	イ	ニ	660	A	G	E		
GL 350(Q)・400(Q)・430(Q) GL 35(Q)・40(Q)・43(Q)	1	イ	ホ	610	A	G	E		
GL 200Q・220Q・240Q GL 201Q・221Q・241Q	1	イ	へ	550	A	G	E		
GL 240DJQ・260Q・268Q GL 241DJQ・261Q・277Q GL-23DJQ・25Q・26Q・27Q	1	イ	ホ	595	A	G	E		
L <sub>1</sub> -195・215・185・205 L <sub>1</sub> -18・20	1	イ	ホ	715	A	G	E		
L <sub>1</sub> -235DJ	1	イ	ホ	590	A	G	E		
L <sub>1</sub> -235・255・225・245 L <sub>1</sub> -22・24	1	イ	ホ	600	A	G	E		
L <sub>1</sub> -275・265 L <sub>1</sub> -26	1	イ	ホ	640	A	G	E		

トラクタ型式	トラクタ部の調整				オートヒッチ			ジョイント 切断寸法(mm)	備考
	トップ リンク 取付穴	ロアー リンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ(mm)	トップ リンク 取付穴	ロアー リンク 取付穴	マスト ステー 取付穴	C2B-62	
L1-275DJ(V)	1	イ	ホ	650	A	G	E		
L1-295・315・325・285 L1-28	1	イ	ニ	650	A	G	E		
L1-325ドラフト	1	イ	ニ	620	A	G	E		
L1-345・385・435・455 L1-33・38・43・45	1	イ	ホ	610	A	G	E		
A-175・195	1	ロ	ト	550	A	G	E		
GB 16・18・20	1	ロ	ト	540	A	G	E		
GB 160・180・200	1	イ	へ	540	A	G	E		
KL 210・230 KL 21(J)(Q)・23(J)(Q) KL 25(Q)・33-T	4	イ	へ	560	A	G	E		キャビン仕様 は上昇規制要
KL 25J(Q)・27(Q)・28	4	イ	へ	580	A	G	E		
KL 270・280 KL 300・310・340 KL 27J(Q)・28Q・30(Q) KL 31(Q)・33(Q)・34(Q)	4	イ	へ	630	A	G	E		
KL 36(Q)・43(Q)	3	イ	ホ	680	A	G	E	C2B-67 に交換	
KL 38H(Q)・41H(Q)	3	イ	ホ	640	A	G	E		
KT 20(J)・22(J)・24(J)・27	1	イ	へ	540	A	G	E		
KT 27J・30(J)	3	イ	ト	570	A	G	E		
KT 20PC・24PC・27PC	3	イ	へ	540	B	G	E		
Bb 260	1	イ	ホ	600	A	G	F		ジョイント異 音時PTO切る
AF 18(Q)・180(Q) AF 118(Q)・120(Q)	1	イ	ホ	490	A	G	E		
AF 22(Q)・24(Q) AF 210(Q)・250(Q)・230(Q)	1	イ	ホ	540	B	G	E		
AF 26(Q)・28(Q)・28J(Q) AF 270(Q)・290(Q)	1	イ	ニ	620	B	G	E		
AF 30(Q)・33(Q) AF 33J(Q)・35J(Q)	1	イ	ニ	735	A	G	E	C2B-72 に交換	
AF 310(Q)・330(Q) AF 350(Q)・400(Q)	1	イ	ニ	700	A	G	E	C2B-67 に交換	
AF 322(Q)・324(Q)・326(Q)	1	ロ	ホ	540	B	G	E		
AF 328(Q)・330(Q)	1	イ	ホ	620	B	G	E		
AF 333(Q)・336(Q) AF 339(Q)・342(Q)	1	イ	ホ	700	A	G	E	C2B-67 に交換	
AF 218(Q)・220(Q) AF 222(Q)・224(Q) F-190(Q)・210(Q)・230(Q)	3	イ	へ	590	A	G	E		
F-250(Q) AF 226(Q)	3	イ	へ	570	A	G	E		

トラクタ型式	トラクタ部の調整				オートヒッチ			ジョイント 切断寸法(mm)	備考
	トップ リンク 取付穴	ロアー リンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ(mm)	トップ リンク 取付穴	ロアー リンク 取付穴	マスト ステー 取付穴	C2B-62	
RS 240(Q)・270(Q)・300(Q) RS 330(Q) RS 24(Q)・27(Q)・30(Q)・33(Q)	1	イ	ニ	520	A	G	E		
US 32(Q)・36(Q)	1	イ	ニ	550	B	G	E		
US 40(Q)	1	イ	ニ	520	B	G	E		
US 31(Q)・35(Q)	1	イ	ニ	490	A	G	E		
US 39(Q)・45(Q)	1	イ	ニ	510	A	G	E		
F-180・200・220 F(x) 175・195 F(x) 17・18 FF 205・225	3	イ	ホ	570	A	G	E		F(x)195・18 FF205・205 は上昇規制要
F(x) 215・235・255 F(x) 20・22・24 FF 245	1	イ	ホ	580	A	G	E		
F(x) 265 FX 30S	3	イ	ホ	630	A	G	E	C2B-72 に交換	
FX 285 FX 26	3	イ	ホ	560	A	G	E		
FX 305・335・435 FX 28・32・42	3	イ	ホ	550	A	G	E		
F 395, F 37	1	イ	ホ	600	A	G	E	C2B-72 に交換	
FV 200・220	4	イ	ホ	360	A	G	E		
FV 230・250・270	4	イ	ホ	510	A	G	E		
FV 280・310	4	イ	ホ	540	A	G	E		
FV 330・430	1	イ	ホ	540	A	G	E		
F 375	1	イ	ホ	540	A	G	E		
F 435	1	イ	ホ	520	A	G	E		
US 324・326・328 US 330・334	2	イ	ホ	520	A	G	E		
AC 18, MRT18D	3	イ	ホ	480	A	G	E		
EF 324	3	イ	へ	540	B	G	E		
EF 326(J)・328(J)	3	イ	ホ	640	B	G	E		
EF 330(J)・334(J) EF 338(J)・342J	3	イ	ホ	660	A	G	E		
CT 280・340	1	イ	ホ	550	A	G	E		
TF 17・19 TF 173・193	1	イ	へ	540	A	G	F		
TF 21・23・26	1	イ	ホ	470	A	G	E		
TGS 25 TG 21・23・25(Q) TG 233・253・273(Q)	1	イ	ニ	510	A	G	E		

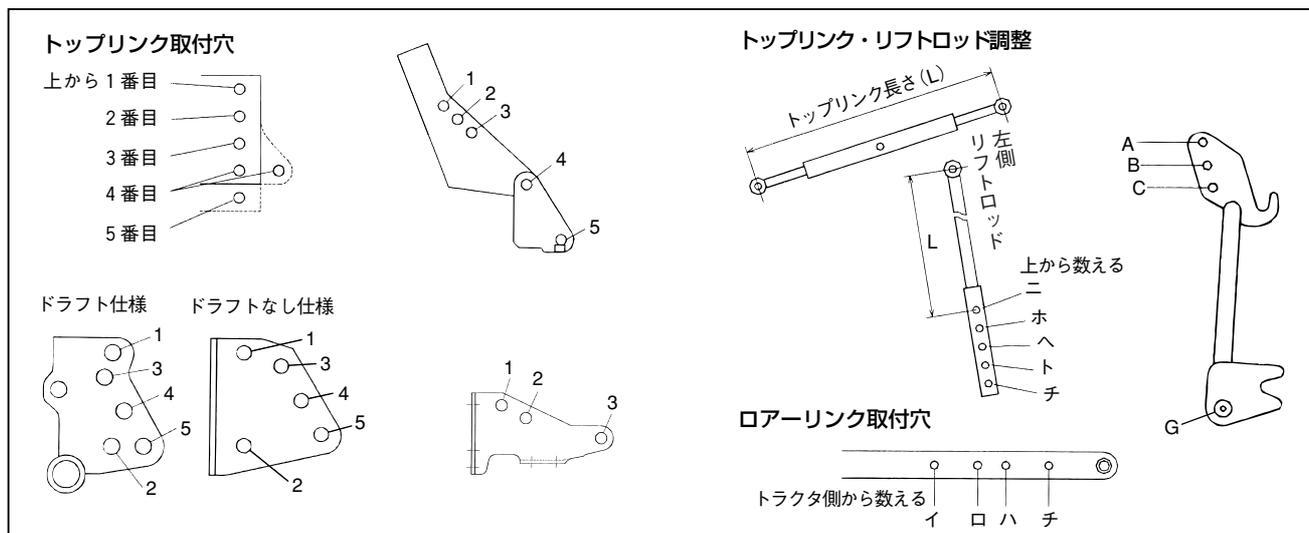
トラクタ型式	トラクタ部の調整				オートヒッチ			ジョイント 切断寸法(mm)	備考
	トップ リンク 取付穴	ロアー リンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ(mm)	トップ リンク 取付穴	ロアー リンク 取付穴	マスト ステー 取付穴	C2B-62	
TGS 29・30・33 TG 27N・27(Q)・29(Q) TG 29H・31N・31(Q)・33(Q) TG 293(Q)・313(Q)・333(Q)	1	イ	ニ	500	A	G	E		
TGS 37・41 TG 37(Q)・43(Q)・413(Q)	1	イ	ニ L=490	530	A	G	E		
TU 197・217・237・257 TU 185・205・225・245 TU 180・200・220・240	1	イ	ニ	530	A	G	E		
TG 21Q・23Q・233Q・253Q	1	イ	ニ	620	A	G	F		
TF 223・243 (セミクロ)	1	イ	ニ L=440	500	A	G	E		
TK 21・25・29・33(C)	1	イ	ニ	580	A	G	F		
TA 207・227・247・263 TA 267・287・317 TA 215・235・262・255 TA 275・312 TA 210・230・250・270	1	イ	ニ	610	A	G	F		
TG 353・373 TK 37・41 TA 337・357・417・437 TA 295・325・345・375・435 TA 290・320・340・370	1	イ	ニ	480	A	G	E		
TA 415・455・410・450	3	イ	ニ	500	A	G	E		
TH18・20	1	イ	へ	540	A	G	F		
TH 22・24・26 THS 22・24・26	1	イ	へ	420	B	G	E		
TH 20C・24C	1	イ	ホ	540	A	G	E		
THS 18・20	1	イ	へ	520	A	G	E		
TPC 15	1	ハ	へ	490	A	G	E		
MTZ 200, MTZ 18 MT 170・190・181	1	イ	ニ	490	A	G	E		
MTZ 20・21・23 MT 201・221・241 MT 200・220・240 MT 185・205 MTX 225・245	1	イ	ホ	490	B	G	E		
MT 226・246・266・286・306 MT 225・245・265	1	イ	ホ L=480	490	A	G	E		
MT 265L・285・305	1	イ	ホ L=480	490	A	G	E	C2B-67 に交換	
MT 335・365・337・367	1	口	ニ L=477	490	A	G	E		
MT 22・24・26・26(改)	1	イ	ホ	490	A	G	E		
MT 18	1	イ	ホ L=452	490	A	G	E		
MT 20, MTX 24	1	イ	ホ L=467	490	A	G	E		
MT 22・24・26・21・23・25	1	イ	ニ L=442	490	A	G	E		
MTX 28	1	イ	ホ L=480	490	A	G	E		

トラクタ型式	トラクタ部の調整				オートヒッチ			ジョイント 切断寸法(mm)	備考
	トップ リンク 取付穴	ロアー リンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ(mm)	トップ リンク 取付穴	ロアー リンク 取付穴	マスト ステー 取付穴	C2B-62	
MT 27・30	1	イ	ニ L=442	490	A	G	E		
MT 33	1	ロ	ニ L=477	490	A	G	E		
MT 400	1	イ	ホ	490	B	G	E		
MTM 250・270・300 MTR 250・270・300	3	イ	ホ	490	A	G	E		
MT 231・251(K) MT 271・291・311・331(K)	1	イ	ホ	490	A	G	E	C2B-67 に交換	
MT 338・368・408	1	イ	ニ	490	A	G	E		
GS 18・20	3	イ	ニ	530	A	G	E		
GS 21・23・25	1	イ	ニ	520	A	G	E		
D 208・228	1	イ	ニ	530	A	G	E		
D 238・258・278	1	イ	ホ	510	A	G	E		
D 288・318・338・438	1	イ	ホ	540	A	G	E		
D 195・215 P 19・21	1	イ	ニ	540	A	G	E		
S 325A	1	イ	ホ	510	A	G	E		
S 330A D 235・275・265・295 D 23・23M・26・28	1	イ	ホ	550	A	G	E		
S440A D 335・435 D 32・34・43	1	イ	ホ	540	A	G	E		
S445A X45	1	イ	ホ	520	A	G	E		
F 2200KL	3	イ	ホ	640	A	G	E		
F 2100KL	4	イ	へ	630	A	G	E		
F 2200	1	イ	ニ	660	A	G	E		
F 2100	1	イ	ニ	680	A	G	E		
NX 200・220・240 NX 201・221・241 NX 19・21・23	1	イ	ホ	550	A	G	E		
NX 260・280・261・281 NX 25・27	1	イ	ニ	600	B	G	E		
NX 200Q・220Q・240Q NX 201Q・221Q・241Q	1	イ	へ	550	A	G	E		
NX 260Q・261Q NX 25Q・27Q	1	イ	ホ	595	A	G	E		
NX 280(Q)・300(Q)・320(Q) NX 338(Q)・301(Q)・321(Q) NX 281Q NX 29(Q)・32(Q)・337(Q)	1	イ	ニ	680	A	G	E		
NX 368(Q)・418(Q) NX 367(Q)・417(Q)	1	イ	ニ	660	A	G	E		

トラクタ型式	トラクタ部の調整				オートヒッチ			ジョイント 切断寸法(mm)	備考
	トップ リンク 取付穴	ロアー リンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ(mm)	トップ リンク 取付穴	ロアー リンク 取付穴	マスト ステー 取付穴	C2B-62	
NX 35(Q)・40(Q)・43(Q) NX 350(Q)・400(Q)・430(Q)	1	イ	ホ	610	A	G	E		
N 189	1	イ	ニ	570	A	G	E		
N 209	1	イ	ニ	600	A	G	E		
N 229・239	1	イ	ニ	640	A	G	E		
N 249・279	1	イ	ニ	550	A	G	E		
N 329・359	1	イ	ニ	480	A	G	E		
NTX 21・23・25 NTX 245	4	イ	へ	560	A	G	E		
NTX 25B・27・28H NTX 250・275	4	イ	へ	580	A	G	E		
NTX 28Q・30・31H・33 NTX 34H	4	イ	へ	630	A	G	E		
NTX 36・43	3	イ	ホ	680	A	G	E	C2B-67 に交換	
NTX 38H(Q)・41H(Q)	3	イ	ホ	640	A	G	E		
TZ 20(B)・22(B)・24(B)・27	1	イ	へ	540	A	G	E		
TZ 27B・30(B)	3	イ	ト	570	A	G	E		
NZ 210・230・260	1	イ	へ	520	A	G	E		
NZ 195・215・235・265	1	イ	へ	560	A	G	E		
NZ 265B・305	3	イ	ト	570	A	G	E		
TX 18・20・22 TX 240・241・201・221	1	イ	ホ	550	A	G	E		
TX 260・280・261・281	1	イ	ニ	600	B	G	E		
TX 201Q・221Q TX 240Q・241Q	1	イ	へ	550	A	G	E		
TX 260Q・261Q	1	イ	ホ	595	A	G	E		
TX 280Q・281Q・301(Q) TX 300(Q)・320(Q)・321(Q)	1	イ	ホ	680	A	G	E		
TX 212・232・252	4	イ	へ	560	A	G	E		
TX 272	4	イ	へ	580	A	G	E		
TX 302・332	4	イ	へ	630	A	G	E		

# トラクタ別装着表 (DP501T)

※この表はあくまでマッチング表であり、トラクタ適応馬力を示すものではありません。トラクタ適応馬力の範囲内で御使用ください。  
また、本作業機トラクタ別装着表にお客様のトラクタ型式が載っていない場合は、お買い求めの販売店へお問い合わせください。



トラクタ 型式	トラクタ 部の 調整				作業機 側		ジョイント 切断寸法 (mm)		備 考
	トップリンク 取付穴	ロアーリンク 取付穴	リフトロッド 取付穴	トップリンク 長さ (mm)	トップリンク 取付穴	ヒッチピン 取付穴	4S	3S	
							TC71M	TC69	
GT 21(J)・23(J), GT 26 T 200・220・240, T 22	3	イ	ト	610	A	G	50	50	
GT 26J・30(J)	3	イ	ト	610	A	G	50	50	
GT-3・5・8	3	イ	ト	600	A	G	70	70	
X 20・24	3	イ	ト	600	A	G	70	70	
GL 241K・261K・281K GL 240K・260K・280K GL 25K	3	イ	ヘ	620	C	G	50	50	
GL 201・221・241 GL 200・220・240 GL-21・23	3	イ	ヘ	640	A	G			
GL 201Q・221Q・241Q GL 200Q・220Q・240Q	1	イ	ヘ	590	C	G			
GL 241J・240J GL 261・277・281 GL 301E・321E GL 260・268・280 GL 300ES・320ES GL-23J GL-25・26・27, L 27	3	イ	ヘ	690	A	G			
GL 241JQ・240JQ GL 261C・281C GL 261Q・277Q GL 260Q・268Q GL-25Q・26Q・27Q GL-23JQ, L 27Q	2	イ	ヘ	650	C	G			
GL 281J・280J GL 301・321・337 GL 300・320・338 GL-27J GL-29・32・33 L 33	3	イ	ホ	750	A	G			

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント切断寸法 (mm)		備考
	トップリンク取付穴	ロアーリンク取付穴	リフトロッド取付穴	トップリンク長さ(mm)	トップリンク取付穴	ヒッチピン取付穴	4S	3S	
							TC71M	TC69	
GL 281Q・301Q・321Q GL 337Q・338Q GL 280Q・300Q・320Q GL 301C・321C GL 281JQ・280JQ GL 27JQ GL-29Q・32Q・33Q L 33Q	3	イ	ホ	740	C	G			
GL 367・417 GL 367E・417E GL 368・418 GL 368ES・418ES	3	イ	ホ	760	A	G			
GL 367Q・417Q GL 367EQ・417EQ GL 368Q・418Q GL 368ESQ・418ESQ	3	イ	ホ	750	C	G			
GL 350(Q)・400(Q)・430(Q) GL-35(Q)・40(Q)・43(Q)	3	イ	ホ	660	A	G			
L1-215・205, L1-20	3	イ	ホ	660	C	G			
L1-235J(Q)	3	イ	ホ	670	B	G			
L1-235(Q)・255(Q) L1-225・245 L1-22・24	3	イ	へ	680	A	G			
L1-275J(Q)	3	イ	ホ	750	A	G			
L1-275(Q), L1-265 L1-26	3	イ	へ	740	A	G			
L1-295(Q) 315(Q)・325(Q) L1-285, L1-28	3	イ	ニ	750	A	G			
L1-325(Q)ドラフト	4	イ	ニ	710	A	G			
L1-345(Q)・385(Q)・435(Q) L1-33・38・43	3	イ	ホ	660	A	G			
L1-455(Q), L1-45	3	イ	へ	670	A	G			
MK 40K	2	口	ホ L=725	620	A	G	TC84M に交換	TC80に 交換	
KL 36(Q)・43(Q)	5	イ	へ	710	A	G		TC74に 交換	
KL 38H(Q)・41H(Q) KL 41H-PC	5	イ	へ	680	A	G			
KL 25K・30K	4	イ	へ	660	A	G			
KL 25KS・30KS	4	イ	ホ	660	A	G			
KL 21(J)・23(J), KL 25	4	イ	へ	610	A	G			
KL 27, KL 25NC, KL 25J KL 25HT, KL 28rops KL 33-T(W)	4	イ	へ	630	A	G			
KL 30(Q)・31(Q)・33(Q)・34(Q) KL 28Q, KL 27J	4	イ	へ	690	A	G			
KL 21(J)Q・23(J)Q, KL 25Q	1	口	へ	620	A	G			

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント切断寸法 (mm)		備考
	トップリンク取付穴	ロアーリンク取付穴	リフトロッド取付穴	トップリンク長さ(mm)	トップリンク取付穴	ヒッチピン取付穴	4S	3S	
							TC71M	TC69	
KL 25-PC, KL 25NCQ KL 25HTQ, KL 25JQ KL 27Q	1	イ	へ	650	A	G			
KL 33-PC	2	イ	へ	710	A	G			
KT 20(J)・22(J)・24(J) KT 27	3	イ	ト	610	A	G			
KT 27J, KT30(J)	3	イ	ト	610	A	G	50	50	
Bb 260	2	口	ト	550	A	G	70	70	
L 2202	3	イ	ホ	685	A	G			
AF 210(R)・230(R) AF 250(J)(R) AF 22・24	3	イ	ホ	600	C	G			
AF 210(R)Q・230(R)Q AF 250(J)(R)Q AF 22Q・24Q	1	イ	ホ	570	C	G			ジョイント異音時PTO切
AF 270(J)(R)(Q)・290(J)(R)(Q) AF 26(Q) AF 28(J)(Q)	3	イ	ホ	700	A	G			
AF 310(J)(R)(Q)・330(J)(R)(Q) AF 350(J)(R)(Q) AF 400(R)(Q)	4	イ	ホ	690	A	G			
AF 30(Q)・33(Q)	3	イ	ホ	730	A	G	TC84Mに交換	TC80に交換	
AF 33J(Q) AF 35J(Q)	3	イ	ホ	730	A	G			
AF 30(J)(Q)R・33(J)(Q)R AF 35(J)(Q)R	4	イ	ホ	710	A	G			
F 210・230 AF 218・220・222・224	3	イ	ホ	640	A	G			
F 210Q・230Q AF 218Q・220Q・222Q AF 224Q	1	イ	ホ	600	A	G			
AF 250(Q)・226(Q)	3	イ	へ	640	A	G			
RS 24(Q)・27(Q)・30(Q)・33(Q) RS 240(Q)・270(Q)・300(Q) RS 330(Q)	2	イ	ホ	570	A	G			
F—200・220 FF 205・225	3	口	へ	600	A	G	30	30	
F(x) 215・235・255 F(x) 20・22・24 FF 245	3	イ	ホ	640	C	G			
FX 215M・235M・265M	3	口	へ	680	A	G			
F(x) 265 FX 30S	3	口	ホ	680	A	G			
FX 285 FX 26	3	イ	ホ	570	A	G			

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント 切断寸法 (mm)		備考
	トップ リンク 取付穴	ロアー リンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ(mm)	トップ リンク 取付穴	ヒッチ ピン 取付穴	4S	3S	
							TC71M	TC69	
FX 305・335・435 FX 28・32・42	3	イ	ホ	560	A	G			
F 395	4	イ	へ	630	A	G			
F 395Q F 37	4	イ	へ	630	A	G			
US 31(Q)・35(Q)	3	イ	ホ	570	A	G	70	70	
US 39(Q)・45(Q)	3	ロ	ニ	600	B	G	50	50	
CT 450	5	ロ	へ	560	A	G			トップリンク ブラケット付
CT 450	4	ロ	へ	580	A	G			トップリンク ブラケット無
CT 45	4	イ	ホ	550	A	G			
US 32(R)(Q)・36(R)(Q)	3	ロ	ホ	600	A	G	50	50	
US 40(R)(Q)	3	ロ	ホ	600	B	G	50	50	
AF 324M・328M・330M AF 230M・270M・310M AF 22ML・26ML・30ML	3	イ	ホ	600	C	G			高床時の装着
AF 22MH・26MH	3	イ	ホ	700	A	G			
FV200(Q)・220(Q)	2	イ	ニ	550	A	G	50	50	
FV 230(Q)・250(Q)・270(Q)	2	イ	ホ	550	A	G	50	50	
FV 280(Q)・310(Q)	2	イ	ホ	620	A	G			
FV 330(Q)・430(Q)	2	イ	へ	620	A	G			
F 375	2	イ	へ	620	A	G			
F 435	2	イ	へ	620	A	G			
AF 324・322・326	3	イ	へ	600	C	G			
AF 328・330	3	イ	へ	700	A	G			
AF 333・336・339・342	4	イ	へ	690	A	G			
US 324・326・328・330 US 334	2	イ	ホ	560	A	G	50	50	
AF 324M・328M・330M AF 230M・270M・310M AF 22ML・26ML・30ML	3	イ	ホ	640	C	G			低床時の装着 最大持上時 ジョイント異 音時PTO切
EF 324	3	イ	へ	580	C	G			
EF 326(J)・328(J)	3	イ	へ	690	A	G			
EF 330(J)・334(J)・338(J) EF 342J	4	イ	へ	650	A	G			

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント切断寸法 (mm)		備考
	トップリンク取付穴	ロアーリンク取付穴	リフトロッド取付穴	トップリンク長さ(mm)	トップリンク取付穴	ヒッチピン取付穴	4S	3S	
							TC71M	TC69	
TK 37-FC・41-FC	3	イ	ホ	550	A	G			
THS 20	1	イ	ト	520	A	G	70	70	
TH 20	1	ロ	ヘ	510	A	G	90	90	
TH 22・24・26 THS 22・24・26	1	イ	ヘ	470	B	G	90	90	
TF 223(N)(Q)・243(N)(Q)	3	イ	ニ L=440	580	A	G	70	70	
TF 21(N)(Q)・23(N)(Q) TF 26(N)(Q)	3	イ	ホ L=450	580	A	G	70	70	
TF 223H(Q)・243H(Q) TF 23H(Q)	3	イ	ホ L=470	570	A	G	70	70	
TG 233-A・253-A・273-A TG 21-A・23-A・25-A	2	ロ	ホ	540	A	G			
TU 217・237・257 TU 205・225・245 TU 200・220・240	2	イ	ニ	610	A	G	70	70	
TK 25・29・33	2	イ	ホ	540	A	G	60	60	
TG 21・23・25(Q) TG 233・253・273(Q) TGS 25(Q)	3	イ	ニ	600	A	G			
TG 21Q・23Q TG 233Q・253Q TGS 25Q	3	イ	ホ	600	A	G			
TG 27(Q)・29(Q) TG 31(Q)・33(Q) TG 27L・31L TG 29H(Q) TG 293(Q)・313(Q)・333(Q) TGS 29(Q)・33(Q)	3	イ	ニ	600	A	G			
TG 37(Q)・43(Q) TG 413(Q) TGS 37(Q)・41(Q)	3	イ	ニ L=490	600 (580)	A	G			トップリンク長の(580)はドラフト仕様を示す
TA 207(Q)・227(Q)・247(Q) TA 267(Q)・287(Q)・317(Q) TA 215(Q)・235(Q)・255(Q) TA 275(Q) TA 262(Q)・312(Q)・263(Q) TA 210・230・250	2	イ	ホ	560	A	G	50	50	
TA 337(Q)・357(Q) TA 417(Q)・437(Q) TA 295(Q)・325(Q)・345(Q) TA 375(Q)・435(Q) TA 290・320・340・370 TG 353・373 TK 37・41 TGS 37	3	イ	ホ	550 (540)	A	G			トップリンク長の(540)はドラフト仕様を示す
TS 35F	4	イ	ニ	660	A	G			
TR 45(メカ)	4	イ	ニ	630	A	G			

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント切断寸法 (mm)		備考
	トップリンク取付穴	ロアーリンク取付穴	リフトロッド取付穴	トップリンク長さ(mm)	トップリンク取付穴	ヒッチピン取付穴	4S	3S	
							TC71M	TC69	
TR 45(マイコン)	2	イ	ニ	680	A	G			ジョイント異音時PTO切
TH 20C・24C	2	イ	ホ	610	C	G			
MKM 45	2	イ	ニ	620	A	G	TC84Mに交換	TC74又はTC80に交換	
MTZ 20・200	3	イ	ホ	550	A	G	80	80	
MT 201・221・241 MT 200・220・240 MT 205 MTX 225・245 MTZ 21・23	3	イ	ホ	600	A	G			
MT 231・251・271・291 MT 311・331	3	イ	ホ	690	A	G		TC74に交換	
MT 226・246・266 MT 286・306・336 MT 225・245・265	3	イ	ホ L=491	630	A	G			
MT 226Q・246Q・266Q MT 286Q・306Q・336Q MT 225Q・245Q・265Q	1	イ	ホ L=491	590	A	G			
MT 265L MT 285・305	3	イ	ホ L=491	670	A	G			
MT 265LQ MT 285Q・305Q	1	イ	ホ L=491	640	A	G			
MT 335(O)・365(O) MT 337(O)・367(O)	4	口	ニ L=477	550	A	G			
MT 338・368	4	口	ニ	540	A	G			
MT 408	4	イ	ニ	540	A	G			
MT 20 MTX 24	3	イ	ホ L=467	540	A	G	90	90	
MT 22改・24改・26改	3	イ	ホ L=480	610	A	G			
MT 22・24・26 MT 21・23・25	3	イ	ホ L=480	630	A	G			
MTX 28	3	イ	ホ L=480	630	A	G			
MT 27・30	4	イ	ホ L=480	560	A	G			
MT 33	4	口	ニ L=477	550	A	G			
MT 400(O)	3	口	ホ	600	B	G	50	50	
MTR 250・270・300 MTM 250・270・300	3	イ	ホ	640	A	G			
GS 20	3	イ	ニ	580	A	G	80	80	
GS 21・23・25	3	イ	ホ	590	A	G	50	50	
D 208(O)・228(O)	2	イ	ニ	550	A	G	50	50	
D 238(O)・258(O)・278(O)	2	イ	ホ	550	A	G	50	50	

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント切断寸法 (mm)		備考
	トップリンク取付穴	ロアーリンク取付穴	リフトロッド取付穴	トップリンク長さ(mm)	トップリンク取付穴	ヒッチピン取付穴	4S	3S	
							TC71M	TC69	
D 288(Q)・318(Q)	2	イ	ホ	620	A	G			
D 338(Q)・438(Q) S 440A新	2	イ	へ	620	A	G			
D 228L	2	イ	ニ	580	A	G	50	50	
D 215・21	2	イ	ホ	560	A	G	50	50	
D 215L P21L	2	イ	ニ	570	A	G	50	50	
S 325A	2	イ	ホ	560	A	G	50	50	
D 235(Q)・265(Q)・275(Q) D 295(Q), D 23M D 23・26・28 S 330A	2	イ	ホ	610	A	G			
D 335(Q)・435(Q) D 32・34・43 S 440A	2	イ	ホ	620	A	G			
X 45(Q) S 445A	2	イ	へ	620	A	G			
N 200	3	イ	ホ	540	A	G	100	100	
N 209	3	イ	ホ	480	C	G	30	30	
N 229・239	3	イ	ホ	500	C	G			
N 249・279	3	イ	ホ	510	C	G			
N 329・359	3	イ	ホ	500	C	G			
CX 200	3	口	ト	480	A	G	70	70	
NZ 215(B)・235(B)・265	3	イ	ト	610	A	G	50	50	
NZ 265B・305(B)	3	イ	ト	610	A	G	50	50	
NZ 210・230・260	3	イ	ト	600	A	G	70	70	
NX 201・221・241 NX 200・220・240 NX-21・23	3	イ	へ	640	A	G			
NX 201Q・221Q・241Q NX 200Q・220Q・240Q	1	イ	へ	590	C	G			
NX 261・277・281 NX 301Z・321Z	3	イ	へ	690	A	G			
NX 261Q・277Q・260(Q) NX 25Q・27Q	2	イ	へ	650	C	G			
NX 301・321・337 NX 300・320・338 NX 29・32	3	イ	ホ	750	A	G			
NX 281Q・301Q・321Q NX 280Q・300Q・320Q NX 337Q・338Q NX 29Q・32Q	3	イ	ホ	740	C	G			
NX 367(Z)・417(Z) NX 368・418	3	イ	ホ	760	A	G			

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント 切断寸法 (mm)		備考
	トップ リンク 取付穴	ロアー リンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ(mm)	トップ リンク 取付穴	ヒッチ ピン 取付穴	4S	3S	
							TC71M	TC69	
NX 367(Z)Q・417(Z)Q NX 368Q・418Q	3	イ	ホ	750	C	G			
NX 350(Q)・400(Q)・430(Q) NX 35(Q)・40(Q)・43(Q)	3	イ	ホ	660	A	G			
NTX 36・43	5	イ	へ	710	A	G		TC74に 交換	
NTX 38・41	5	イ	へ	680	A	G			
NTX 21・23・25 NTX 245	4	イ	へ	610	A	G			
NTX 28 NTX 28rops	4	イ	へ	630	A	G			
NTX 28Q NTX 30・31・33・34	4	イ	へ	690	A	G			
NTX 21Q・23Q・25Q NTX 245Q	1	口	へ	620	A	G			
NTX 27Q	1	イ	へ	650	A	G			
TX 20・22	3	口	へ	610	A	G	50	50	
TX 201・221・241 TX 200・220・240	3	イ	へ	640	A	G			
TX 201Q・221Q・241Q TX 200Q・220Q・240Q	1	イ	へ	590	C	G			
TX 261・281 TX 260・280	3	イ	へ	690	A	G			
TX 260Q・261Q	2	イ	へ	650	C	G			
TX 301・321 TX 300・320	3	イ	ホ	750	A	G			
TX 281Q・301Q・321Q TX 280Q・300Q・320Q	3	イ	ホ	740	C	G			
TX 212・232・252	4	イ	へ	610	A	G			
TX 272	4	イ	へ	630	A	G			
TX 302・332	4	イ	へ	690	A	G			
TX 212Q・232Q・252Q	1	口	へ	620	A	G			
TX 272Q	1	イ	へ	650	A	G			
MK-30	2	イ	ホ L=725	670	A	G	TC84M に交換	TC80に 交換	
MK-40	2	イ	ホ L=725	650	A	G	TC84M に交換	TC80に 交換	
MK-30(94)	2	イ	ホ L=675	670	A	G	TC84M に交換	TC80に 交換	
MK-40(94)	2	口	ホ L=725	650	A	G	TC84M に交換	TC80に 交換	
MK-40(96) MK-40S	2	口	ホ L=725	620	A	G	TC84M に交換	TC80に 交換	

# 点検整備一覧表

時 間	項 目	参照ページ
新品使用始め	本体各部のグリス給油確認	24
新品1時間使用后	全部のボルト、ナットを増締め	23
毎日の作業前	① 各部ボルト・ナットのゆるみ	23
	② 本体各部のグリス給油確認	24
	③ ジョイントのグリスニップルへの給油	23
	④ 地面から上げて空転での、異音、異常振動等、異常の点検	24
毎日の作業後	① 洗浄後、水分拭き取り	28
	② ボルト、ナット、ピン類の緩み、脱落の点検	23
	③ 入力軸へグリス塗布	28
	④ ジョイント、スリーブ部かみ合い部へのグリス塗布	28
	⑤ ジョイントノックピンへの給油	28
150時間ごと又は シーズン終了後	① 駆動部へのグリスの給油とオイルシールの異常点検	29
	② ジョイントへのグリス給油	28
	③ 安全ラベルの剥がれの点検	5
	④ 無塗装へのサビ止め	
	⑤ 消耗部品の交換	32

# 異常診断一覧表

使用中あるいは使用後の点検時に下表の異常が発生した場合、そのままにしておきますと故障、事故の原因となります。

再使用せず、直ちに対策を行ってください。

本体各部	症 状	原 因	対 策
駆 動 部	異 音 の 発 生	ベアリングの損傷	ベアリング交換
	グ リ ス の 漏 れ	オイルシールの損傷	オイルシール交換
	異常な高温の発生	ベアリングの破損	ベアリング交換
		ブッシュの損傷	ブッシュ交換
		グリス切れ	グリス給油
ジョイント	異 音 の 発 生	グリス切れ	グリス給油
		ジョイントの折れ角が不適合	マッチング姿勢の矯正
		作業機の上げすぎ	リフト量の規制
	た わ み 発 生	シャフトのかみ合い不足	長いものと交換
	スプライン部のガタ	ノックピンとヨークの摩耗	交換

# 用語解説

## アタッチメント

作業機に後付けする部品

## オートヒッチ

トラクタに乗ったままワンタッチで作業機を装着できるヒッチ

## クリーブ

超低速の作業速度

## 耕深

耕うんする深さ

## 3点リンク

トラクタに作業機を装着するための3点で支持を行うリンク

## チェックチェン

トラクタに対し作業機が左右に振れる量を規制するチェン

## トップリンク

作業機を装着する3点のリンクのうち、作業機の上部を吊り下げているリンク

## 揚力

トラクタが作業機を上昇させるための力

## ジョイント

トラクタの動力を作業機へ伝達するための軸

## リフトロッド

トラクタが作業機を上げるためロアーリンクと連結しているアーム

## リリーフ弁

油圧装置に規定以上の油の圧力がかかり油圧装置が破損することを防止する弁

## ロアーリンク

作業機を装着する3点リンクのうち、作業機の下部を吊り下げているリンクで左右1本ずつある

## ポジションコントロールレバー

作業機を上げ下げするために使用するレバー

# MEMO

---

A series of horizontal dashed lines for writing.

# MEMO

---

A series of horizontal dashed lines for writing.

# MEMO

---

A series of horizontal dashed lines for writing.

# KOBASHI

小橋工業株式会社

〒701-0292 岡山市南区中畦684

☎ (086) 298-3112

インターネットでも弊社の情報をご覧いただけます。

<http://www.kobashikogyo.com>

■北海道営業所	〒071-1248	北海道上川郡鷹栖町8線西2号6番	☎ (0166) 49-0070
■東北営業所	〒024-0004	岩手県北上市村崎野13地割35-1	☎ (0197) 71-1160
■関東営業所	〒321-3325	栃木県芳賀郡芳賀町芳賀台47-1	☎ (028) 687-1600
■新潟営業所	〒942-0041	新潟県上越市安江477-1	☎ (025) 546-7747
■岡山営業所	〒701-0165	岡山市北区大内田727	☎ (086) 250-1833
■九州営業所	〒861-2236	熊本県上益城郡益城町広崎1586-8 2F	☎ (096) 286-0202